



Informatica®
10.5.8

バージョン 10.2.2 からの アップグレード (10.5.8)

Informatica バージョン 10.2.2 からのアップグレード (10.5.8)

10.5.8

2025 年 3 月

© 著作権 Informatica LLC 2006, 2025

本ソフトウェアおよびマニュアルは、使用および開示の制限を定めた個別の使用許諾契約のもとでのみ提供されています。本マニュアルのいかなる部分も、いかなる手段（電子的複製、写真複製、録音など）によっても、Informatica LLC の事前の承諾なしに複製または転載することは禁じられています。

Informatica、Informatica ロゴ、PowerCenter、および PowerExchange は、米国およびその他の国における Informatica LLC の商標または登録商標です。Informatica の商標の最新リストは、Web (<https://www.informatica.com/trademarks.html>) にあります。その他の企業名および製品名は、それぞれの企業の商標または登録商標です。

オプトアウトの権利の制限の下、本ソフトウェアによって、本ソフトウェアがデプロイされているコンピューティングおよびネットワーク環境に関する情報、デプロイメントのデータ使用状況およびシステム統計情報が米国の Informatica に自動的に送信されます。この送信は Informatica のプライバシーポリシーの下にサービスの一部と見なされ、Informatica は、<https://www.informatica.com/in/privacy-policy.html> のプライバシーポリシーに従って、この情報を使用または処理します。使用状況の収集は、Administrator ツールで無効にすることができます。

米政府の権利プログラム、ソフトウェア、データベース、および関連文書や技術データは、米国政府の顧客に配信され、「商用コンピュータソフトウェア」または「商業技術データ」は、該当する連邦政府の取得規制と代理店固有の補足規定に基づきます。このように、使用、複製、開示、変更、および適応は、適用される政府の契約に規定されている制限およびライセンス条項に従うものとし、政府契約の条項によって適当な範囲において、FAR 52.227-19、商用コンピュータソフトウェアライセンスの追加権利を規定します。

本ソフトウェアまたはドキュメンテーション（あるいはその両方）の一部は、第三者が保有する著作権の対象となります。必要な第三者の通知は、製品に含まれています。

特許については、<https://www.informatica.com/legal/patents.html> を参照してください。

本マニュアルの情報は、予告なしに変更されることがあります。このドキュメントで問題が見つかった場合は、infa_documentation@informatica.com までご報告ください。

Informatica 製品は、それらが提供される契約の条件に従って保証されます。Informatica は、商品性、特定目的への適合性、非侵害性の保証等を含めて、明示的または黙示的ないかなる種類の保証をせず、本マニュアルの情報を「現状のまま」提供するものとします。

発行日: 2025-05-18

目次

序文	6
Informatica のリソース.....	6
Informatica Network.....	6
Informatica ナレッジベース.....	6
Informatica マニュアル.....	7
Informatica 製品可用性マトリックス.....	7
Informatica Velocity.....	7
Informatica Marketplace.....	7
Informatica グローバルカスタマサポート.....	7
 第 1 章 : アップグレードの概要	8
Informatica のアップグレード.....	8
アップグレードパス.....	8
アップグレードプロセス.....	9
 第 2 章 : Linux でドメインをアップグレードする前に	11
リリースノートの確認.....	11
システム要件の確認.....	11
一時ディスクスペースと権限の確認.....	11
ドメインアップグレード要件の確認.....	12
パッチ要件の確認 Linux の場合.....	13
ディストリビューションパッケージ要件の確認 Linux および UNIX.....	15
環境変数の確認.....	15
インストーラファイルのダウンロードと抽出.....	16
Linux でインストーラパッケージのチェックサムを確認.....	17
Informatica Upgrade Advisor を実行します.....	17
構成ファイルのバックアップ.....	18
 第 3 章 : アップグレードの準備	19
データトランスフォーメーションファイルのバックアップ.....	19
モデルリポジトリのバックアップ.....	20
データ統合サービスの準備.....	20
参照データのディレクトリの準備.....	20
データベースのバックアップ.....	20
ドメインの準備.....	21
ドメインのシャットダウン.....	21
ドメインのバックアップ.....	21
 第 4 章 : ドメインのアップグレード	23
Informatica ドメインのアップグレード.....	23

コンソールモードでのアップグレード.....	23
サイレントモードでのアップグレード.....	25
プロパティファイル内のパスワードの暗号化.....	26
プロパティファイルの作成.....	26
サイレントインストーラの実行.....	28
ドメインアップグレードのトラブルシューティング.....	28

第 5 章 : ノード設定の変更を伴うドメインのアップグレード..... 30

ノード設定の変更を伴うドメインのアップグレードの概要.....	30
別のデータベースへの移行.....	31
別のマシンへのインストールの移行.....	31
インストールディレクトリのコピー.....	32
Windows 上のポートの使用可否の判定.....	32
手順 3. システムユーザーアカウントの作成.....	33
手順 4. サービスマシンへのネイティブ接続の設定.....	33
手順 5. データベースクライアントソフトウェアのインストール.....	34
手順 6. データベースクライアントの環境変数の設定.....	34
コンソールモードでのアップグレード.....	35
サイレントモードでのアップグレード.....	41
ノード設定の変更の完了.....	42
ブラウザのキャッシュをクリアする.....	42
ロケール環境変数の設定.....	42
ライブラリパス環境変数の設定.....	43
動的ポート番号の範囲の確認.....	43
ノードバックアップディレクトリの確認.....	43
PowerExchange アダプタの設定.....	44

第 6 章 : アプリケーションサービスのアップグレード..... 45

アプリケーションサービスのアップグレードの概要.....	45
サービスをアップグレードする特権.....	45
以前のバージョンからのサービスアップグレード.....	46
アップグレードウィザードの実行.....	46
モデルリポジトリサービスのアップグレードの確認.....	47
オブジェクト依存関係のグラフ.....	47
Model Repository サービスの詳細プロパティ.....	48

第 7 章 : Informatica クライアントのアップグレード..... 49

Informatica クライアントのアップグレードの概要.....	49
Informatica クライアントをアップグレードする前に.....	49
グラフィカルモードでのアップグレード.....	50
サイレントモードでのアップグレード.....	51
プロパティファイルの作成.....	52
サイレントインストーラの実行.....	52

アップグレードした後に	53
付録 A: アップグレードチェックリスト	54
アップグレードチェックリストの概要	54
ドメインをアップグレードする前に	54
ドメインのアップグレード	55
アプリケーションサービスをアップグレードする前に	56
アプリケーションサービスのアップグレード	56
Informatica クライアントのアップグレード	57
アップグレードした後に	57
付録 B: ディストリビューションパッケージの管理	58
ディストリビューションパッケージの管理の概要	58
作業を開始する前に	59
コンソールモードでのディストリビューションパッケージのインストールまたは削除	59
サイレントモードでのディストリビューションパッケージのインストールまたは削除	60
インストールした後に	61
索引	62

序文

製品をアップグレードするには、このアップグレードガイドの手順に従ってください。

Informatica ドメインのサービスとクライアントをアップグレードするには、アップグレードガイドを参照してください。データベース要件を確認して、データベースをドメイン用に設定します。サポートされている製品のディストリビューションは、ネイティブ環境でも非ネイティブ環境でも確認できます。使用する環境が、インストールプロセス、一時ディスク領域、ポートの可用性、データベース、アプリケーションサービスハードウェアの最小システム要件を満たしていることを確認します。

複数台のマシンに製品サービスとクライアントをアップグレードできます。すべてのノードでサーバインストローを実行してアップグレードします。ドメインをアップグレードした後、Administrator ツールにログインして、アプリケーションサービスをアップグレードする必要があります。その後、すべてのマシンの Informatica クライアントをアップグレードできます。

Informatica のリソース

Informatica は、Informatica Network やその他のオンラインポータルを通じてさまざまな製品リソースを提供しています。リソースを使用して Informatica 製品とソリューションを最大限に活用し、その他の Informatica ユーザーや各分野の専門家から知見を得ることができます。

Informatica Network

Informatica Network は、Informatica ナレッジベースや Informatica グローバルカスタマサポートなど、多くのリソースへの入口です。Informatica Network を利用するには、<https://network.informatica.com> にアクセスしてください。

Informatica Network メンバーは、次のオプションを利用できます。

- ナレッジベースで製品リソースを検索できます。
- 製品の提供情報を表示できます。
- サポートケースを作成して確認できます。
- 最寄りの Informatica ユーザーグループネットワークを検索して、他のユーザーと共同作業を行えます。

Informatica ナレッジベース

Informatica ナレッジベースを使用して、ハウツー記事、ベストプラクティス、よくある質問に対する回答など、製品リソースを見つけることができます。

ナレッジベースを検索するには、<https://search.informatica.com> にアクセスしてください。ナレッジベースに関する質問、コメント、ご意見の連絡先は、Informatica ナレッジベースチーム (KB_Feedback@informatica.com) です。

Informatica マニュアル

Informatica マニュアルポータルでは、最新および最近の製品リリースに関するドキュメントの膨大なライブラリを参照できます。マニュアルポータルを利用するには、<https://docs.informatica.com> にアクセスしてください。

製品マニュアルに関する質問、コメント、ご意見については、Informatica マニュアルチーム (infa_documentation@informatica.com) までご連絡ください。

Informatica 製品可用性マトリックス

製品可用性マトリックス (PAM) には、製品リリースでサポートされるオペレーティングシステム、データベースなどのデータソースおよびターゲットが示されています。Informatica PAM は、<https://network.informatica.com/community/informatica-network/product-availability-matrices> で参照できます。

Informatica Velocity

Informatica Velocity は、Informatica プロフェッショナルサービスが開発したヒントとベストプラクティスのコレクションで、多数のデータ管理プロジェクトから得た実体験に基づいています。Informatica Velocity には、世界中の組織と連携してデータ管理ソリューションを計画、開発、デプロイ、管理する Informatica コンサルタントによる集合知を表しています。

Informatica Velocity リソースには、<http://velocity.informatica.com> からアクセスしてください。Informatica Velocity についての質問、コメント、またはアイデアがある場合は、ips@informatica.com から Informatica プロフェッショナルサービスにお問い合わせください。

Informatica Marketplace

Informatica Marketplace は、お使いの Informatica 製品を拡張したり強化したりするソリューションを検索できるフォーラムです。Marketplace で、Informatica デベロッパーやパートナーからの多数のソリューションを活用すれば、生産性を向上したり、プロジェクトでの実装時間を短縮したりできます。Informatica Marketplace は、<https://marketplace.informatica.com> からアクセスしてください。

Informatica グローバルカスタマサポート

電話または Informatica Network を介してグローバルカスタマサポートに連絡できます。

各地域の Informatica グローバルカスタマサポートの電話番号は、Informatica Web サイト (<https://www.informatica.com/services-and-training/customer-success-services/contact-us.html>) を参照してください。

Informatica Network のオンラインサポートリソースを見つけるには、<https://network.informatica.com> にアクセスして eSupport オプションを選択します。

第 1 章

アップグレードの概要

この章では、以下の項目について説明します。

- [Informatica のアップグレード, 8 ページ](#)
- [アップグレードパス, 8 ページ](#)
- [アップグレードプロセス, 9 ページ](#)

Informatica のアップグレード

Informatica Platform は、サーバーコンポーネントおよび 1 つ以上のクライアントコンポーネントで構成されます。Informatica では、Informatica サービスおよびクライアントをアップグレードするために別々のインストーラが提供されます。

ドメイン内の各ノードをアップグレードする際に、ノードホスト名、ポート番号、またはドメイン環境設定リポジトリデータベースへの変更を許可するようにノード設定の変更を選択することができます。

アップグレードパス

実行するアップグレードパスは、現在使用している製品とバージョンによって異なります。

HotFix またはアップグレードを適用する場合は、次のルールとガイドラインを考慮してください。

- メジャーリリースに関連付けられているバージョンを使用している場合は、HotFix を適用できます。例えば、10.5 はメジャーリリースなので、10.5.x のどのバージョンからでも HotFix を適用できます。
- 現在メジャーリリースに関連付けられたバージョンを使用していない場合は、サポートされている以前のリリースから現在のリリースにアップグレードできます。
- 直接アップグレードすることができないバージョンを使用している場合は、サポートされるバージョンにアップグレードしておく必要があります。
- サポートされている更新には、HotFix、サービスパック、累積パッチも含まれます。

重要: Informatica インストーラでサポートされている他の製品と同じドメインに Data Engineering がある場合は、10.5.8 にアップグレードする前に、すべての製品がサポートされている同じアップグレードバージョンにアップグレードされていることを確認してください。

以下の表に、ルールとガイドラインの詳細を示します。

製品	バージョン
PowerCenter	10.5.8 HotFix は 10.5.x のどのバージョンにも適用できます。 10.2 から 10.4.1 のバージョンから、10.5.8 バージョンにアップグレードできます。
Informatica Data Quality	10.5.8 HotFix は 10.5.x のどのバージョンにも適用できます。 10.2 から 10.4.1 のバージョンから、10.5.8 バージョンにアップグレードできます。
Data Engineering Integration	10.5.8 HotFix は 10.5.x のどのバージョンにも適用できます。 10.2 から 10.4.1 のバージョンから、10.5.8 バージョンにアップグレードできます。
Data Engineering Quality	10.5.8 HotFix は 10.5.x のどのバージョンにも適用できます。 10.2 から 10.4.1 のバージョンから、10.5.8 バージョンにアップグレードできます。
Data Engineering Streaming	10.5.8 HotFix は 10.5.x のどのバージョンにも適用できます。 10.2.2 から 10.4.1 のバージョンから、10.5.8 バージョンにアップグレードできます。
Data Privacy Management	10.5.8 HotFix は 10.5.x のどのバージョンにも適用できます。 現在、バージョン 10.4 または 10.4.1 を使用している場合は、バージョン 10.5 にアップグレードしてから、10.5.8 HotFix を適用します。
Enterprise Data Catalog	10.5.8 HotFix は 10.5.x のどのバージョンにも適用できます。 現在、バージョン 10.4 または 10.4.1 を使用している場合は、バージョン 10.5 にアップグレードしてから、10.5.8 HotFix を適用します。
Enterprise Data Preparation	10.5.8 HotFix は 10.5.x のどのバージョンにも適用できます。 現在、バージョン 10.4 または 10.4.1 を使用している場合は、バージョン 10.5 にアップグレードしてから、10.5.8 HotFix を適用します。
Test Data Management	10.5.8 HotFix は 10.5.x のどのバージョンにも適用できます。 現在、バージョン 10.2 HotFix 2、10.4 または 10.4.1 を使用している場合は、バージョン 10.5 にアップグレードしてから、10.5.8 HotFix を適用します。

アップグレードプロセス

Informatica サービスと Informatica クライアントのアップグレードは、複数のフェーズで構成されています。

アップグレードは以下のフェーズで構成されます。

1. ドメインに対するアップグレード前タスクを実行し、正常にインストーラを実行できるようにします。
2. ドメインをアップグレードします。ドメインをアップグレードするには、Informatica サーバーインストーラを実行し、アップグレードオプションを選択します。ドメインアップグレードウィザードでサーバーファイルをインストールし、ドメインを設定します。ドメインに複数のノードがある場合、すべてのノードをアップグレードする必要があります。ドメイン内の各ノードをアップグレードする際に、ノードホスト名、ポート番号、またはドメイン環境設定リポジトリデータベースへの変更を許可するようにノード設定の変更を選択することができます。

以下の表に、ドメインをアップグレードするときにインストーラが実行する処理を示します。

タスク	説明
Informatica Upgrade Advisor の実行。	インストーラがアップグレード前タスクを実行してサービスを検証し、ドメイン内の廃止されたサービス、サポートされているデータベース、およびサポートされているオペレーティングシステムについて確認します。 アップグレードを進める前に、競合を解決します。
Informatica のインストール。	Informatica のディレクトリとファイルを新しいディレクトリにインストールします。
infa_shared ディレクトリのコピー。	infa_shared ディレクトリの内容を、既存のインストールディレクトリから新しいインストールディレクトリにコピーします。
暗号化キーファイルをコピーします。	ドメイン暗号化キーファイルを、既存のインストールディレクトリからアップグレード時に指定したディレクトリにコピーします。
既存のドメインで Kerberos 認証を使用する場合は、Kerberos 構成ファイルおよびキータブファイルをコピーします。	既存インストールディレクトリの Kerberos 構成ファイルを、新しいインストールディレクトリにコピーします。既存インストールディレクトリのキータブファイルを、アップグレード時に指定した暗号化キーディレクトリにコピーします。
ドメインのアップグレード。	このアップグレードでは、ドメイン内のユーザーアカウントおよび管理者アカウントが保持されます。
Informatica サービスの開始。	ノード上で Informatica サービスを開始します。

- アプリケーションサービスをアップグレードします。ドメインをアップグレードした後、Administrator ツールにログインしてアプリケーションサービスをアップグレードします。サービスアップグレードウィザードでは、アップグレードが必要なすべてのアプリケーションサービスの一覧が表示されます。依存オブジェクトに必要な順序に基づいてサービスがアップグレードされます。

- すべてのマシンで Informatica Developer をアップグレードします。

注: 以前のバージョンの Developer tool を使用して Informatica ドメインに接続することはできません。

Informatica クライアントをアップグレードするには、Informatica クライアントインストーラを実行し、アップグレードオプションを選択します。クライアントが複数のマシンにインストールされている場合は、すべてのマシンのクライアントをアップグレードします。

- アップグレード後のタスクを実行します。

注: Informatica のインストールを複数のマシンでアップグレードする場合は、このガイドの詳細な指示を使用して最初のアップグレードを完了してください。その後のアップグレードは、付録のアップグレードチェックリストを利用して実行できます。

第 2 章

Linux でドメインをアップグレードする前に

この章では、以下の項目について説明します。

- [リリースノートの確認, 11 ページ](#)
- [システム要件の確認, 11 ページ](#)
- [インストーラファイルのダウンロードと抽出, 16 ページ](#)
- [Informatica Upgrade Advisor を実行します, 17 ページ](#)
- [構成ファイルのバックアップ, 18 ページ](#)

リリースノートの確認

リリースノートで、インストールとアップグレードプロセスの最新情報を参照してください。また、このリリースでの既知および修正済みの問題についての情報も確認できます。

リリースノートは Informatica の [documentation portal](#) で参照できます。

システム要件の確認

使用する環境が、インストールプロセス、一時ディスク領域、ポートの可用性、データベース、アプリケーションサービスハードウェアの最小システム要件を満たしていることを確認します。

製品要件およびサポートされているプラットフォームの詳細については、「[Product Availability Matrix](#)」を参照してください。

一時ディスクスペースと権限の確認

一時ディスク容量、一時ファイルに対する権限、Informatica クライアントツールに関する最小システム要件を、現在の環境が満たしていることを確認します。

一時ファイル用のディスク容量

インストーラによりハードディスクに一時ファイルが書き込まれます。インストールをサポートするディスク容量 1 GB がマシンにあることを確認します。インストールが完了した場合、インストーラにより一時ファイルが削除され、ディスク容量が解放されます。

次の表に、PowerCenter または Data Engineering 製品をインストールするための最小ディスク容量とメモリ要件を示します。

オプション	最小要件
インストーラを実行するための一時ディスク領域	1GB のディスク容量
Data Engineering 製品のアプリケーションサービスを使用したインストール	50GB のディスク容量、8GB RAM、8 コア。50GB のうち 25GB は製品インストールバイナリ用に使用されます。
PowerCenter のアプリケーションサービスを使用したインストール	50GB のディスク容量、4GB RAM、6 コア。50GB のうち 25GB は製品インストールバイナリ用に使用されます。

一時ファイルの権限

/tmp ディレクトリの読み取り、書き込み、実行の権限があることを確認します。

製品要件およびサポートされているプラットフォームの詳細については、「[Product Availability Matrix](#)」を参照してください。

ドメインアップグレード要件の確認

アップグレードを開始する前にアップグレード前のタスクを完了します。アップグレードする Informatica の以前のバージョンをホストするすべてのマシンでインストーラを実行します。マルチノードドメインでは、ワーカーノードをアップグレードする前にゲートウェイノードをアップグレードします。アップグレードを実行する前に、Informatica ドメインのトラストストアファイルに TrustedCertEntry のみが含まれていることを確認してください。このファイルからすべての PrivateKeyEntry エントリを削除する必要があります。

マシンが Informatica ドメインをアップグレードするための最小システム要件を満たしていることを確認します。

Informatica ドメインをアップグレードするには、50GB 以上のディスク容量と 6GB の RAM があることを確認してください。

注: アップグレードする際、既存の infa_shared ディレクトリが使用している追加のディスク領域がインストーラで必要です。

バージョン 10.5 以降では、サイトキーのサイズが 128 ビットから 256 ビットに拡大しました。生成されたサイトキーは復元できないため、Informatica インストーラを実行するときは、生成されたサイトキーのバックアップも必要になります。また、暗号化キーを生成するときにキーワードとドメイン名を指定する必要はありません。生成されたサイトキーは、各ノードにコピーするか、各ノードからアクセスできる共有の場所に配置する必要があります。アップグレードインストーラを実行するときは、古いサイトキーでアップグレードする必要があります。ドメインのアップグレード後、必ずサイトキーを移行してください。

製品要件およびサポートされているプラットフォームの詳細については、「[Product Availability Matrix](#)」を参照してください。

サイトキーの確認

アップグレードする前にサイトキーを確認します。生成されたサイトキーをバックアップし、古いサイトキーを使用してアップグレードインストーラを実行します。ドメインのアップグレード後、サイトキーを移行します。

バージョン 10.5 以降では、サイトキーのサイズが 128 ビットから 256 ビットに拡大しました。

生成されたサイトキーは復元できないため、Informatica インストーラを実行するときは、生成されたサイトキーのバックアップします。暗号化キーを生成するときにキーワードとドメイン名を指定する必要はありません。

生成されたサイトキーを各ノードにコピーするか、生成されたサイトキーを各ノードからアクセスできる共有の場所に配置します。アップグレードインストーラを実行するときは、古いサイトキーでアップグレードします。

ドメインのアップグレード後、サイトキーを移行します。

パッチ要件の確認 Linux の場合

Informatica サービスをインストールする前に、必要なオペレーティングシステムのパッチとライブラリがマシンにインストールされていることを確認します。

Linux 上の PowerCenter

The following table lists the patches and libraries that the Informatica services require for PowerCenter on Linux:

Platform	Operating System	Operating System Patch
AWS Linux	Linux 2 - 2.0.20220805.0	All of the following packages: <ul style="list-style-type: none">- e2fsprogs-libs-1.42.9-19.amzn2.x86_64- keyutils-libs-1.5.8-3.amzn2.0.2.x86_64- libsepol-2.5-8.1.amzn2.0.2.x86_64- libseline-2.5-12.amzn2.0.2.x86_64
Ubuntu	20.04.1	All of the following packages: <ul style="list-style-type: none">- e2fsprogs/focal,now 1.45.5-2ubuntu1 amd64 [installed]- libkeyutils1/focal,now 1.6-6ubuntu1 amd64 [installed,automatic]- libsepol1/focal,now 3.0-1build2 amd64 [installed,automatic]- libselinux1/focal,now 3.0-1 amd64 [installed,automatic]
Ubuntu	18.04	All of the following packages: <ul style="list-style-type: none">- e2fsprogs/focal,now 1.45.5-2ubuntu1 amd64 [installed]- libkeyutils1/focal,now 1.5.9-9.2ubuntu2 amd64 [installed,automatic]- libsepol1/focal,now 2.7-2build2 amd64 [installed,automatic]- libselinux1/focal,now 2.7-1ubuntu0.1 amd64 [installed,automatic]
Linux-x64	Red Hat Enterprise Linux 7.3	All of the following packages, where <version> is any version of the package: <ul style="list-style-type: none">- e2fsprogs-libs-<version>.el7- keyutils-libs-<version>.el7- libsepol-<version>.el7- libselinux-<version>.el7
Linux-x64	Red Hat Enterprise Linux 8	All of the following packages, where <version> is any version of the package: <ul style="list-style-type: none">- e2fsprogs-libs-<version>.el8- keyutils-libs-<version>.el8- libsepol-<version>.el8- libselinux-<version>.el8

Platform	Operating System	Operating System Patch
Linux-x64	SUSE Linux Enterprise Server 12	Service Pack 2
Linux-x64	SUSE Linux Enterprise Server 15	Service Pack 0 and Service Pack 1.

Linux 上の Data Engineering

The following table lists the patches and libraries that the Informatica services require on Linux:

Platform	Operating System	Operating System Patch
AWS Linux	Linux 2 - 2.0.20220805.0	All of the following packages: <ul style="list-style-type: none"> - e2fsprogs-libs-1.42.9-12.amzn2.0.2.x86_64 - keyutils-libs-1.5.8-3.amzn2.0.2.x86_64 - libselinux-2.5-12.amzn2.0.2.x86_64 - libsepol-2.5-8.1.amzn2.0.2.x86_64
Ubuntu	20.04.1	All of the following packages: <ul style="list-style-type: none"> - e2fsprogs/focal,now 1.45.5-2ubuntu1 amd64 [installed] - libkeyutils1/focal,now 1.6-6ubuntu1 amd64 [installed,automatic] - libselinux1/focal,now 3.0-1build2 amd64 [installed,automatic] - libsepol1/focal,now 3.0-1 amd64 [installed,automatic]
Ubuntu	18.04	All of the following packages: <ul style="list-style-type: none"> - e2fsprogs/focal,now 1.45.5-2ubuntu1 amd64 [installed] - libkeyutils1/focal,now 1.5.9-9.2ubuntu2 amd64 [installed,automatic] - libselinux1/focal,now 2.7-2build2 amd64 [installed,automatic] - libsepol1/focal,now 2.7-1ubuntu0.1 amd64 [installed,automatic]
Linux-x64	Red Hat Enterprise Linux 6.7	All of the following packages, where <version> is any version of the package: <ul style="list-style-type: none"> - e2fsprogs-libs-<version>.el6 - keyutils-libs-<version>.el6 - libselinux-<version>.el6 - libsepol-<version>.el6
Linux-x64	Red Hat Enterprise Linux 7.3	All of the following packages, where <version> is any version of the package: <ul style="list-style-type: none"> - e2fsprogs-libs-<version>.el7 - keyutils-libs-<version>.el7 - libselinux-<version>.el7 - libsepol-<version>.el7
Linux-x64	Red Hat Enterprise Linux 8	All of the following packages, where <version> is any version of the package: <ul style="list-style-type: none"> - e2fsprogs-libs-<version>.el8 - keyutils-libs-<version>.el8 - libselinux-<version>.el8 - libsepol-<version>.el8

Platform	Operating System	Operating System Patch
Linux-x64	SUSE Linux Enterprise Server 12	Service Pack 2
Linux-x64	SUSE Linux Enterprise Server 15	Service Pack 0 and Service Pack 1.

ディストリビューションパッケージ要件の確認 Linux および UNIX

Informatica ドメインを Hadoop 環境または Databricks 環境と統合するために、サードパーティのディストリビューションパッケージを使用できます。

Informatica ドメインとクライアントでは、Informatica ドメイン内で複合ファイル进行处理したり、Hadoop または Databricks 環境に接続して Informatica ドメイン内で処理したり、処理を Hadoop または Databricks 環境にプッシュしたりするために、ディストリビューションパッケージが必要です。

ディストリビューションパッケージが必要な場合は、インストーラまたは Integration Package Manager (パッケージマネージャ) を使用していつでもインストールできます。

Informatica ドメイン内での処理

Informatica ドメイン内で複合ファイル进行处理する場合、または Hadoop または Databricks に接続するが Informatica ドメイン内で処理する場合には、以前の Informatica バージョンで使用していたディストリビューションパッケージを使用できます。

次のアダプタには、Informatica ドメイン内で処理するためのディストリビューションパッケージが必要です。

- PowerExchange for Amazon S3
- PowerExchange for Google Cloud Storage
- PowerExchange for Google Cloud Storage for PowerCenter
- PowerCenter 用 PowerExchange for Hadoop
- PowerExchange for HBase
- PowerExchange for HDFS
- PowerExchange for Hive
- PowerExchange for JDBC V2
- PowerExchange for Kafka for PowerCenter
- PowerExchange for MapR-DB
- PowerExchange for Microsoft Azure Blob Storage
- PowerExchange for Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1
- PowerExchange for Microsoft Azure Data Lake Storage Gen2

Hadoop または Databricks 環境での処理

処理を Hadoop または Databricks 環境にプッシュする場合、Informatica ドメインとクライアントにはディストリビューションパッケージが必要です。サポートされているディストリビューションパッケージの詳細については、『[Product Availability Matrix](#)』を参照してください。

環境変数の確認

Informatica のインストールで使用する環境変数を設定します。

以下の表に、確認する環境変数を示します。

変数	説明
IATEMPDIR	インストール中に作成される一時ファイルの場所。Informatica は一時ファイル用に 1 GB のディスク容量が必要です。 /tmp ディレクトリに一時ファイルを作成しない場合に、この環境変数を設定します。
INFA_DOMAINS_FILE	domains.infa ファイルの場所を含みます。アップグレードを開始する前にこの変数を取り消します。
INFA_HOME	Informatica インストールディレクトリの場所を含みます。アップグレードを開始する前にこの変数を取り消します。
LANG および LC_ALL	ロケールを変更してターミナルセッションに適切な文字エンコードを設定します。例えば、フランス語の場合は Latin1 または ISO-8859-1 に、日本語の場合は EUC-JP または Shift JIS に、中国語と韓国語の場合は UTF-8 にエンコードを設定します。文字エンコードにより、UNIX 端末に表示される文字の種類が決まります。
DISPLAY	インストーラを実行する前に DISPLAY 環境変数を設定解除します。 DISPLAY 環境変数に何らかの値が設定されている場合、インストールに失敗する可能性があります。
ライブラリパス	ライブラリパス環境変数が Informatica の以前のバージョンを含んでいないことを確認します。
PATH	PATH 環境変数が Informatica の以前のバージョンを含んでいないことを確認します。
SKIP_VENDOR_CHECK	環境変数を構成して Linux または AIX へのインストーラから sudo プロンプトを削除します。 環境変数を true に設定すると Linux または AIX に対するアップグレードインストーラから sudo プロンプトが削除されます。 注: sudo 権限がない場合は、アップグレードする前に環境変数を true に設定します。sudo 権限がある場合は、環境変数を設定する必要はありません。

インストーラファイルのダウンロードと抽出

インストーラファイルは圧縮ファイルとして配布されます。Informatica インストールファイルとディストリビューションパッケージは、注文処理電子メールに含まれている FTP リンクから取得できます。

Informatica インストール tar ファイルと必要なディストリビューションパッケージの ZIP ファイルを Informatica 電子ソフトウェアダウンロードサイトからダウンロードします。これらは、ローカルディレクトリ、またはマシンにマッピングされている共有ネットワークドライブにダウンロードできます。

その他の圧縮ファイルやユーティリティをダウンロードするには、Informatica グローバルカスタマサポートに配送要求を送信してください。

インストーラファイルをマシンのディレクトリに抽出します。インストーラを実行するユーザーには、インストーラファイルディレクトリの読み取り/書き込み権限、および実行可能ファイルの実行権限が必要です。

注: マッピングされたファイルからインストーラを実行することはできないため、インストーラファイルをローカルディレクトリに抽出してください。

ディストリビューションパッケージの ZIP ファイルを次の場所にコピーします: <Informatica インストーラファイル>/source

注: ディストリビューションパッケージの ZIP ファイルがソースディレクトリで利用できない場合、インストーラは失敗します。

Linux でインストーラパッケージのチェックサムを確認

Informatica サービスのアップグレードインストーラを実行する前に、cksum コマンドを使用してインストールパッケージの整合性を確認します。cksum コマンドは、インストーラのチェックサム値を計算します。

Informatica 電子ソフトウェアダウンロードサイトからダウンロードしたインストールファイルのチェックサムに対して、特定のインストーラファイルのチェックサムを確認します。

次の表に、Linux 用の Informatica サービスインストーラのチェックサムとファイルサイズを示します。

ファイル	チェックサム値	ファイルサイズ
informatica_1058_server_linux-x64.tar	2274480782	15115591680 バイト

チェックサムの不一致は、ネットワークの問題が原因でダウンロード中にデータ エラーが発生した場合、またはディスク上のファイルでデータの破損が発生した場合に発生する可能性があります。チェックサムエラーの詳細については、[HOW TO: Identify file errors after downloading Informatica installation files](#) を参照してください。

Informatica Upgrade Advisor を実行します

アップグレードを実行する前に、Informatica Upgrade Advisor を実行してサービスを検証し、ドメイン内の廃止されたサービス、サポートされているデータベース、およびサポートされているオペレーティングシステムについて確認します。

注: ノード設定を変更しない場合は、アップグレード前に Informatica Upgrade Advisor を実行できます。設定の異なるノードに移行する前に Informatica Upgrade Advisor を実行すると、一部のデータベースやノードの設定に不具合が発生する可能性があります、それらの不具合は無視できます。

ドメイン設定リポジトリデータベースを変更してアップグレードする前に、Informatica インストーラから i10Pi を実行して、新しいデータベースタイプ、データベースバージョン、オペレーティングシステム、またはマシンのインストールサポートを確認してください。i10Pi の設定に関する詳細については、『*Informatica インストールガイド*』を参照してください。

1. システムユーザーアカウントを使用してマシンにログインします。
2. Informatica Upgrade Advisor を実行する前に、ドメインとサービスが実行されていることを確認します。
3. シェルコマンドラインで、ルートディレクトリにある install.sh ファイルを実行します。
ロケール環境変数が設定されていることを確認するよう求めるメッセージが表示されます。
4. 環境変数が設定されていない場合は、**N** キーを押してインストーラを終了し、必要に応じて環境変数を設定します。

環境変数が設定されている場合は、**Y** キーを押して続行します。

5. Informatica をアップグレードするには、**2** キーを押します。
6. Informatica Upgrade Advisor を実行するには、**1** キーを押します。
【ようこそ】 セクションが表示されます。
7. **Enter** キーを押します。
【インストールディレクトリ】 セクションが表示されます。
8. 現在のインストールディレクトリを入力します。
9. **Enter** キーを押します。
【ドメインおよびノードの設定】 セクションが表示されます。
10. 次のドメイン情報を入力します。

プロパティ	説明
ドメイン名	ドメインの名前。デフォルトのドメイン名は、Domain_<MachineName>です。名前は 128 文字以下で、7 ビットの ASCII 文字のみにする必要があります。スペースまたは次のいずれかの文字は使用できません: ` % * + ; " ? , < > \ /`
ゲートウェイノードのホスト名	ドメインのゲートウェイノードをホストするマシンのホスト名です。
ゲートウェイノードのポート名	ゲートウェイノードのポート番号。
ドメインユーザー名	ドメイン管理者のユーザー名。初回はこのユーザー名を使用して Informatica Administrator にログインできます。次のガイドラインを使用します。 名前では大文字と小文字が区別されず、128 文字以内であることが必要です。 名前には、タブ、改行文字、または次の特殊文字を使用できません: % * + / ? ; < > - 名前には、先頭と末尾の文字以外に ASCII スペース文字を使用できます。その他のスペース文字は使用できません。
ドメインのパスワード	ドメイン管理者のパスワードです。パスワードは、3 文字以上で 16 文字を超えないようにする必要があります。 Kerberos 認証を使ったネットワーク上で実行されるように Informatica ドメインを設定する場合は使用できません。

11. **Enter** キーを押します。
【Informatica Upgrade Advisor のサマリ】 セクションが表示されます。
12. Advisor の結果をログファイル (Summary_<timestamp>.log) で確認します。
13. **Enter** キーを押して、Informatica Upgrade Advisor を閉じます。

構成ファイルのバックアップ

いずれかの構成ファイルに、カスタマイズ、更新されたプロファイル、または新しいプロパティが含まれている場合は、インストール構成ファイルをバックアップします。

第 3 章

アップグレードの準備

この章では、以下の項目について説明します。

- [データトランスフォーメーションファイルのバックアップ, 19 ページ](#)
- [モデルリポジトリのバックアップ, 20 ページ](#)
- [データ統合サービスの準備, 20 ページ](#)
- [参照データのディレクトリの準備, 20 ページ](#)
- [データベースのバックアップ, 20 ページ](#)
- [ドメインの準備, 21 ページ](#)

データトランスフォーメーションファイルのバックアップ

アップグレードの前に、以前のバージョンで作成されたデータトランスフォーメーションファイルをバックアップする必要があります。アップグレードの完了後、新しいインストールディレクトリにファイルをコピーして、以前のバージョンと同じカスタムグローバルコンポーネントを取得します。

以下の表に、バックアップする必要があるファイルまたはディレクトリを示します。

ファイルまたはディレクトリ	デフォルトの場所
リポジトリ	<Informatica installation directory>\DataTransformation\ServiceDB
カスタムグローバルコンポーネントディレクトリ (TGP ファイル)	<Informatica installation directory>\DataTransformation\autoInclude\user
カスタムグローバルコンポーネントディレクトリ (DLL および JAR ファイル)	<Informatica installation directory>\DataTransformation\externLibs\user
構成ファイル	<Informatica installation directory>\DataTransformation\CMConfig.xml
ライセンスファイル	<Informatica installation directory>\DataTransformation\CDELicense.cfg

Data Transformation のライブラリファイルはコピーしないでください。代わりに、Data Transformation のライブラリを再度インストールします。

モデルリポジトリのバックアップ

Administrator ツールを使用して、モデルリポジトリのコンテンツをバックアップします。

モデルリポジトリをバックアップするには、Administrator ツールで [モデルリポジトリサービス] を選択します。次に、[ドメインアクション] メニューで、[リポジトリコンテンツ] > [バックアップ] の順にクリックします。

データ統合サービスの準備

ドメインをアップグレードする前に、すべての実行中のジョブが完了していることを確認します。データ統合サービスは、アップグレードプロセス中にユーザーが中断したワークフローをリカバリできません。

参照データのディレクトリの準備

参照データファイルをデフォルト以外のディレクトリにインストールまたはコピーする場合は、アップグレードする前にディレクトリをバックアップします。

参照データファイルをインストールディレクトリ構造の外部のディレクトリにインストールまたはコピーする場合、ディレクトリをバックアップする必要はありません。

デフォルトでは、アップグレード操作によって以下の参照データディレクトリの内容が保持されます。

- <Informatica installation directory>/services/DQContent/INFA_Content/dictionaries/
参照ディクショナリファイルの親ディレクトリ。
- <Informatica installation directory>/services/DQContent/INFA_Content/av/
アドレス参照データファイルの親ディレクトリ。
- <Informatica installation directory>/services/DQContent/INFA_Content/identity/
ID ポピュレーションデータファイルの親ディレクトリ。

アップグレード後にディレクトリ構造にディレクトリをリストアできるように、ディレクトリの場所を記録します。

データベースのバックアップ

ドメインをアップグレードする前に、プロファイリングウェアハウス、参照データウェアハウス、およびワークフローデータベースをバックアップします。

ドメインの準備

ドメインをアップグレードする前に、ドメインを準備するための手順を実行します。

ドメインのシャットダウン

ドメインをシャットダウンする前に、すべてのアプリケーションサービスを停止できます。ドメインをバックアップしてからアップグレードする前に、ドメインをシャットダウンする必要があります。

ドメインをシャットダウンするには、ドメイン内の各ノード上で Informatica サービスプロセスを停止します。

サポートされている環境に応じて、次のいずれかの方法を使用して、各ノードの Informatica サービスプロセスを停止できます。

- Informatica を Windows の [スタート] メニューから停止するには、[プログラム] > [Informatica[バージョン]] > [サーバー] > [Informatica サービスの停止] の順にクリックします。
- UNIX 上で Informatica を停止するには、*infaservice* コマンドを使用します。デフォルトでは、実行可能ファイル *infaservice* は次のディレクトリにインストールされています。

```
<Informatica installation directory>/tomcat/bin
```

デーモンを停止するには次のコマンドを入力します。

```
infaservice shutdown
```

サポートされている環境に応じて、Windows のコントロールパネルまたは Administrator ツールから Informatica サービスを停止することもできます。

ドメインのバックアップ

ドメインをアップグレードする前に、ドメインの設定メタデータをバックアップする必要があります。

ドメインをバックアップするには、次の手順を実行します。

- *infasetup BackupDomain* コマンドを実行して、ドメイン環境設定データベーステーブルをファイルにバックアップします。
- メタデータコンフィギュレーションファイルを、Informatica をインストールしているマシンからアクセス可能な任意のディレクトリにバックアップします。

Informatica *infasetup* には、ドメインのバックアップとリストアを行うためのコマンドラインプログラムが含まれています。*infasetup* は、以下のディレクトリにあります。

```
<Informatica installation directory>/isp/bin
```

infasetup を使用してドメインをバックアップするには、以下の構文を使用します。

```
BackupDomain
```

```
<<-DatabaseAddress|-da> database_hostname:database_port|
```

```
<-DatabaseConnectionString|-cs> database_connection_string>
```

```
<-DatabaseUserName|-du> database_user_name
```

```
<-DatabasePassword|-dp> database_password
```

```
<-DatabaseType|-dt> database_type
```

```
[<-DatabaseServiceName|-ds> database_service_name]
```

```
<-BackupFile|-bf> backup_file_name
```

```
[<-Force|-f>]
```

```
<-DomainName|-dn> domain_name
```

[<-Tablespace|-ts> tablespace_name (used for IBM DB2 only)]

[<-SchemaName|-sc> schema_name (used for Microsoft SQL Server only)]

[<-DatabaseTlsEnabled|-dbtls> database_tls_enabled]

[<-DatabaseTruststorePassword|-dbtp> database_truststore_password]

[<-TrustedConnection|-tc> trusted_connection (used for Microsoft SQL Server only)]

[<-EncryptionKeyLocation|-kl> encryption_key_location]

メタデータコンフィギュレーションファイルを、Informatica をインストールしているマシンからアクセス可能な任意のディレクトリにバックアップします。以下の表は、メタデータファイルと、その場所を示します。

メタデータファイル	説明
nodemeta.xml	ノードのメタデータが含まれます。 ドメイン内の各ノード上の isp/config ディレクトリに格納されます。 すべてのノードで同じバックアップディレクトリ名を使用する場合、バックアップ場所にコピーする前に nodemeta.xml の名前を変更します。 たとえば、nodemeta.xml を、ノード A とノード B の/nodebak ディレクトリにバックアップするとします。ノード A の場合、ファイルが/nodebak/nodemeta_A.xml に、ノード B の場合、/nodebak/nodemeta_B.xml にバックアップされるように、コンフィギュレーションファイルの名前を変更します。
domains.infa	ゲートウェイノードの接続情報が含まれます。 次のいずれかの場所に格納されます。 <ul style="list-style-type: none">- クライアントおよびサーバーマシン上の Informatica インストールディレクトリ。- INFA_DOMAINS_FILE 環境変数で設定されている場所。

第 4 章

ドメインのアップグレード

この章では、以下の項目について説明します。

- [Informatica ドメインのアップグレード, 23 ページ](#)
- [コンソールモードでのアップグレード, 23 ページ](#)
- [サイレントモードでのアップグレード, 25 ページ](#)
- [ドメインアップグレードのトラブルシューティング, 28 ページ](#)

Informatica ドメインのアップグレード

アップグレードウィザードは、以前のバージョンのファイルからドメイン情報を読み取り、同じ設定を使用してドメインとサーバーファイルを設定してアップグレードを行います。以前のバージョンと同じデータベースのドメイン環境設定リポジトリのテーブルがアップグレードされます。コンソールまたはサイレントモードでアップグレードできます。

アップグレードは、インストールファイルをダウンロードしたディレクトリから実行できます。

コンソールモードでのアップグレード

UNIX または Linux では、コンソールモードでアップグレードを実行できます。

コンソールモードでインストーラを実行する場合、Quit、Back および Help という単語は予約語です。これらの単語を入力テキストで使わないでください。

1. 以前のバージョンのインストールに使用したユーザーアカウントでマシンにログインします。
2. アップグレードする Informatica 製品のディレクトリおよびサブディレクトリにアクセスするプロセスを、コマンドプロンプトおよび tail log を含めてすべて停止します。
3. シェルコマンドラインで、インストールファイルを実行します。
ロケール環境変数が設定されていることを確認するよう求めるメッセージが表示されます。
4. 環境変数が設定されていない場合は、**N** キーを押してインストーラを終了し、必要に応じて環境変数を設定します。
環境変数が設定されている場合は、**Y** キーを押して続行します。
5. Informatica をアップグレードするために、**[2]** キーを押します。
6. Informatica Upgrade Advisor を実行するには、**1** キーを押します。

Informatica では、Informatica サービスのインストールプロセスを容易にするためのユーティリティを用意しています。このユーティリティは、Informatica サービスをアップグレードする前に実行します。Informatica Upgrade Advisor を使用することで、アップグレードを実行する前にサービスを検証し、ドメイン内の廃止されたサービスを確認することができます。

アップグレードを続行する前に、アップグレードする Informatica ドメインをシャットダウンするよう求める警告が表示されます。

7. Informatica 製品使用ツールキットの契約条項を読んでから **[2]** を押してアップグレードを続行します。
以下のオプトアウトの権利の制限の下、本ソフトウェアによって、本ソフトウェアがデプロイされているコンピューティングおよびネットワーク環境に関する情報、デプロイメントのデータ使用状況およびシステム統計情報が米国の Informatica に自動的に送信されます。この送信は Informatica のプライバシーポリシーの下にサービスの一部と見なされ、Informatica は、
<https://www.informatica.com/in/privacy-policy.html> のプライバシーポリシーに従って、この情報を使用または処理します。Administrator ツールでは、使用状況データの収集を無効にすることができます。
8. **[アップグレードの前提条件]** ページに、アップグレードのシステム要件が表示されます。
アップグレードを続行する前に、要件を確認します。
9. アップグレード情報を確認し、**[Enter]** キーを押して続行します。
[アップグレードディレクトリ] パネルが表示されます。
10. プロンプトで、アップグレードする Informatica バージョンのディレクトリ、および Informatica 10.5.8 にアップグレードするディレクトリを入力します。

次の表に、指定する必要があるディレクトリを示します。

ディレクトリ	説明
アップグレードする Informatica 製品のディレクトリ	アップグレードする Informatica サービスのバージョンを含むディレクトリ。
Informatica 10.5.8 のディレクトリ	Informatica 10.5.8 のインストール先ディレクトリ。 インストールディレクトリへの絶対パスを入力します。以前のバージョンの Informatica サービスを含むディレクトリと同じディレクトリは使用できません。また、パスのディレクトリ名にスペースまたは次の特殊文字を含めることはできません。@ * \$#!% () {} [],;' 注: á や € などの特殊文字を使用すると、実行時に予期しない結果が生じることがあります。

11. 次のインストールオプションから、要件に基づいてアップグレード環境を選択します。
 - サンドボックス。概念の証明用、または最小限のユーザーによるサンドボックスとして使用します。
 - 開発環境。設計環境用に使用します。
 - テスト。本番環境に近い大規模な処理環境用に使用します。
 - 本番環境。エンドユーザー向けの大規模な処理と高レベルの同時実行性を備えた本番環境で使します。
12. ノードのホスト名、ポート番号、またはドメイン環境設定リポジトリを変更するかどうかを選択します。以前のバージョンと同じノード設定を使用するには、**[1]** キーを押します。ノード設定を変更するには、**[2]** キーを押します。
[コンポーネントの選択] パネルが表示されます。
13. Informatica サービスをアップグレードするには、**[1]** キーを押します。

14. Informatica インストーラを使用してディストリビューションパッケージをインストールするかどうかを選択します。
 - ディストリビューションパッケージが必要ない場合、または後でインストールする場合は、**1**を押します。
 - インストーラを使用してディストリビューションパッケージをインストールする場合は、**2**を押します。デフォルトは1です。
15. ディストリビューションパッケージのインストールを選択した場合は、リストからインストールするパッケージを1つ以上選択します。複数のパッケージがある場合はカンマで区切ります。
デフォルトは1です。
16. **Enter** キーを押します。
[ドメインセキュリティ - 暗号化キー] パネルが表示されます。
17. Informatica ドメインのユーザー名とパスワードを入力します。
[インストール前のサマリ] ページが表示されます。
18. アップグレード情報を確認し、**Enter** キーを押して続行します。
ドメインのアップグレードが完了すると、[ドメイン設定リポジトリ] パネルが表示されます。
19. **Enter** キーを押してアップグレードを続行します。
インストーラによって、サーバーファイルが Informatica 10.5.8 のインストールディレクトリにコピーされます。
アップグレードするドメイン環境設定リポジトリのデータベースおよびユーザーアカウントの情報が表示されます。以前のバージョンの接続文字列がインストール時に作成された方法に基づいて、ドメイン環境設定リポジトリのデータベース接続文字列が表示されます。
 - 以前のバージョンでインストール時に JDBC URL を使用していた場合は、インストーラでデータベースアドレスを含む JDBC 接続プロパティが表示されます。
 - 以前のバージョンでインストール時にカスタム JDBC 接続文字列を使用していた場合は、インストーラでカスタム接続文字列が表示されます。
20. JDBC URL を使用する場合は、追加のパラメータを指定して接続文字列に含めることができます。
カスタム接続文字列を使用する場合は、追加のパラメータを指定できません。
21. 情報を確認して、**Enter** キーを押します。
アップグレードが完了し、[インストール後のサマリ] パネルが表示されます。
22. [**Enter**] キーを押すとインストール手順が完了し、インストーラが終了します。
アップグレードウィザードで実行されたタスクの詳細と、インストールされたコンポーネントの設定を確認するには、upgrade.log ファイルを参照してください。

サイレントモードでのアップグレード

サイレントモードでは、ユーザーが操作することなくアップグレードを実行できます。

サイレントモードでは、同じマシンのドメインと同じドメイン環境設定リポジトリデータベースのドメインをアップグレードできます。

ユーザーの操作なしで Informatica ドメインサービスをアップグレードするには、サイレントモードでアップグレードします。プロパティファイルを使用してアップグレードオプションを指定します。インストーラはファイルを読み込んでアップグレードオプションを確認します。サイレントモードのアップグレードを使用して、

ネットワーク上の複数のマシンで Informatica ドメインサービスをアップグレードするか、マシン間でアップグレードプロセスを標準化します。

Informatica インストールファイルを、アップグレードする予定の Informatica インスタンスをホストするマシンにコピーします。

サイレントモードでアップグレードするには、以下のタスクを実行します。

1. アップグレードプロパティファイルを作成し、アップグレードオプションを指定します。
2. アップグレードプロパティファイルを使用して、インストーラを実行します。
3. アップグレードプロパティファイル内のパスワードを保護します。

プロパティファイル内のパスワードの暗号化

インストーラをサイレントモードで実行するときにオプションの指定に使用するプロパティファイルで設定するパスワードを暗号化できるユーティリティが、インストーラには含まれています。Informatica では、複数の 256 ビットキーを含む AES 暗号化を使用してパスワードを暗号化します。

ユーティリティは、暗号化するパスワードごとに実行します。ユーティリティを実行するときは、パスワードの値をコマンドプロンプトでプレーンテキストで指定します。ユーティリティは、暗号化された形式のパスワードを出力として生成します。出力には次のプレフィックスが含まれます。=INSTALLER:CIPHER:AES:256=

プレフィックスを含む完全な出力文字列をコピーして、パスワードプロパティの値としてプロパティファイル内に貼り付けます。インストーラをサイレントモードで実行すると、インストールフレームワークによってパスワードが復号化されます。

1. 以下のユーティリティのディレクトリに移動します。

```
<Installer directory>/properties/utils/passwd_encryption
```

2. ユーティリティを実行します。<password>の値として暗号化するプレーンテキストのパスワードを指定します。

- Linux および UNIX では、次のコマンドを実行します。

```
sh install.sh <password>
```

- Windows では、次のコマンドを実行します。

```
install.bat <password>
```

3. 暗号化されたパスワード文字列を出力からコピーして、対応するパスワードの値として properties ファイルに貼り付けます。

次の例は、DOMAIN_PSSWD プロパティの値として設定された、暗号化されたパスワードを示しています。

```
DOMAIN_PSSWD==INSTALLER:CIPHER:AES:256=mjkjmdR2kzFJiizfRWIOpg==
```

プロパティファイルの作成

Informatica には、2 つのバージョンのプロパティファイルがあります。いずれかのファイルを使用して、インストールのオプションを指定します。

サイレント入力アップグレード新規設定プロパティファイル

ノード設定を変更し、ユーザーの操作なしで Informatica ドメインサービスをアップグレードするには、サイレント入力アップグレード新規設定プロパティファイルを使用します。

サイレント入力アップグレード新規設定プロパティファイルには、Informatica ドメインサービスをサイレントモードでアップグレードするために必要な設定プロパティが含まれています。ファイルの各プロパティに設定する適切な値を検討する場合はこのファイルを使用します。

デフォルトサイレント入力アップグレードプロパティファイル

ユーザーの操作なしで Informatica ドメインサービスをアップグレードするには、サイレント入力アップグレードプロパティファイルを使用します。

デフォルトのサイレント入力プロパティファイルには、多数の設定プロパティ用のデフォルト値が含まれます。デフォルトのプロパティ値を使用して Informatica ドメインサービスをアップグレードする場合は、このファイルを使用します。

Informatica は、インストーラに必要なアップグレードパラメータを含むサンプルのプロパティファイルを提供します。サンプルのプロパティファイルをカスタマイズして、アップグレードのオプションを指定できます。

サンプルのアップグレードプロパティファイルは SilentInput_upgrade.properties という名前で、インストーラのダウンロード場所にあります。ファイルをカスタマイズした後、SilentInput.properties というファイル名で保存します。

1. インストールファイルを含むディレクトリのルートに移動します。
2. SilentInput_upgrade.properties という名前のファイルを検索します。
そのファイルをバックアップしてから変更します。
3. テキストエディタを使用してファイルを開き、アップグレードパラメータの値を変更します。
次の表に、変更可能なアップグレードパラメータを示します。

プロパティ名	説明
INSTALL_TYPE	Informatica をインストールするか、アップグレードするかを指定します。 値が 0 の場合、インストーラは Informatica の新規インストールを実行します。値が 1 の場合、インストーラは以前のバージョンの Informatica をアップグレードします。
USER_INSTALL_DIR	新しいバージョンの Informatica サービスをインストールするディレクトリ。以前のバージョンの Informatica サービスが存在するディレクトリと同じディレクトリは使用できません。
UPG_BACKUP_DIR	アップグレードする Informatica サービスの以前のバージョンを含むディレクトリ。
INSTALL_HADOOP_LIBRARIES	インストーラを使用してディストリビューションパッケージをインストールするかどうかを決定します。インストーラを使用してディストリビューションパッケージをインストールする場合は、値を true に設定します。ディストリビューションパッケージが必要ない場合、または後でインストールする場合は、値を false に設定します。
SELECTED_HADOOP_LIBRARIES	サポートされているパッケージのリストから、インストールする統合パッケージを指定します。インストールするディストリビューションパッケージを入力します。複数の場合はカンマで区切ります。
KEY_DEST_LOCATION	このインストールで作成されたノードの暗号化キーを格納するディレクトリ。
DOMAIN_USER	Informatica ドメインのユーザー名。

プロパティ名	説明
DOMAIN_PSSWD	Informatica ドメインのパスワード。
ENABLE_USAGE_COLLECTION	Informatica DiscoveryIQ を有効にします。これは、データの使用状況とシステムの統計値に関するレポートを定期的に Informatica に送信する製品使用状況ツールです。Informatica DiscoveryIQ は、Informatica ドメインをインストールして設定してから 15 分後に、データを Informatica にアップロードします。その後、ドメインはデータを 30 日ごとに送信します。Informatica に使用統計を送信しないように選択することもできます。使用統計の送信を無効にする方法の詳細については、『 <i>Informatica Administrator ガイド</i> 』を参照してください。 アップグレードするには、値を 1 に設定する必要があります。

4. プロパティファイルを「SilentInput.properties」という名前で保存します。

サイレントインストーラの実行

プロパティファイルを作成したら、コマンドプロンプトを開いてサイレントアップグレードを開始します。

1. コマンドプロンプトを開きます。
2. サーバーインストーラディレクトリのルートに移動します。
3. ディレクトリにアップグレードオプションを含む SilentInput.properties ファイルが保存されていることを確認します。
4. サイレントインストール実行可能ファイルを実行します。

サイレントアップグレードがバックグラウンドで実行されます。プロセスにしばらく時間がかかる場合があります。Informatica_<Version>_Services_InstallLog<timestamp>.log がインストールディレクトリに作成されると、サイレントアップグレードプロセスは完了です。

サイレントアップグレードは、プロパティファイルが正しく設定されない場合、または、インストールディレクトリにアクセスできない場合に失敗します。アップグレードが失敗した場合は、サイレントアップグレードログファイルを表示して、エラーを修正します。次に、サイレントインストーラを再実行します。サイレントアップグレードログファイルの名前は silentErrorLog.log です。

このインストーラは、ユーザーのホームディレクトリにログファイルを作成します。

ドメインアップグレードのトラブルシューティング

ドメインのアップグレード中またはアップグレード後に問題が発生した場合は、次のトラブルシューティングのヒントを考慮してください。

ドメインのアップグレードが失敗します。

アップグレードが正常に完了しない場合は、ログファイルを調べて障害の原因を特定します。アップグレードログファイルは、新しいバージョンの Informatica がインストールされているディレクトリのルートにあります。次のログファイルを確認します。Informatica_<Version>_Services_Upgrade.log

アップグレードが続いて失敗する場合、バックアップからドメイン環境設定リポジトリデータベースをリストアし、インストーラを再度実行します。

Administrator ツールにアクセスすると、404 エラーメッセージが表示されます。

安全な通信のために Administrator ツールが設定されている場合、Administrator ツールにアクセスしたときに、404 Not Found メッセージが表示される場合があります。この問題は、ゲートウェイノードを実行しているマシンが、Administrator ツールへの HTTPS 接続に使用されているキーストアファイルにアクセスできない場合に発生します。キーストアファイルをアクセス可能な場所にコピーしてから、ドメインをシャットダウンします。infasetup UpdateGatewayNode コマンドを実行して、キーストアファイルの場所を使用してゲートウェイノードを更新します。ドメイン内の各ゲートウェイノード上でコマンドを実行する必要があります。

アップグレード中またはアップグレード後にドメインがクラッシュします。

アップグレード中またはアップグレード後にドメインがクラッシュする場合は、ドメインのバックアップから siteKey ファイルを復元するか、ドメインの前のバージョンで siteKey を生成した時に指定したものと同一キーワードとドメイン名を使用して暗号化キーを生成します。

マルチノード設定では、マスターノードとは異なるサイトキーを使用するとエラーが発生する可能性があります。

マルチノード設定の場合に、別のサイトキーを使用すると、次のエラーが発生する可能性があります。

```
021-03-03 12:51:44,795 FATAL [Domain Monitor] [DOM_10061] Cannot register node [newISPNode1]
with the domain because the master gateway node is not running or is not connected to the
domain. Verify that all gateway nodes are running on the domain.
```

```
com.informatica.isp.corecommon.exceptions.ISPException: [CCM_10342] The following exception
occurred: [[FrameworkUtils_0018] The encryption key for the node is different from the
encryption for the domain. All the nodes in a domain must use the same encryption key. To
change the encryption key for the domain, run the infasetup migrateEncryptionKey command on
all nodes in the domain.].)
```

この問題を解決するには、マスタノードと同じサイトキーを使用していることを確認します。

第 5 章

ノード設定の変更を伴うドメインのアップグレード

この章では、以下の項目について説明します。

- [ノード設定の変更を伴うドメインのアップグレードの概要, 30 ページ](#)
- [別のデータベースへの移行, 31 ページ](#)
- [別のマシンへのインストールの移行, 31 ページ](#)
- [コンソールモードでのアップグレード, 35 ページ](#)
- [サイレントモードでのアップグレード, 41 ページ](#)
- [ノード設定の変更の完了, 42 ページ](#)

ノード設定の変更を伴うドメインのアップグレードの概要

ノード設定の変更を伴うドメインのアップグレードを行う前に、アップグレードの準備として以下の手順を実行する必要があります。ノード設定にどのような変更を行うかによって、実行する手順は異なります。ドメイン環境設定リポジトリを別のデータベースに移行できます。または、Informatica サービスのインストールを別のマシンに移行できます。

ドメインをアップグレードする場合は、ノードホスト名、ポート番号、またはドメイン環境設定リポジトリデータベースへの変更を許可するようにノード設定を変更できます。

Informatica サービスのインストールを別のマシンに移行した場合は、ドメインをアップグレードして新しいマシンのノードを設定するようにノード設定を変更します。ドメイン環境設定リポジトリを別のデータベースに移行した場合は、ドメインをアップグレードして新しいデータベースを設定するようにノード設定を変更します。

インストーラを実行する前にアップグレード前のタスクを完了します。

ドメイン設定リポジトリデータベースを変更してアップグレードする前に、Informatica インストーラから i10Pi を実行して、新しいデータベースタイプ、データベースバージョン、オペレーティングシステム、またはマシンのインストールサポートを確認してください。i10Pi の設定に関する詳細については、『*Informatica インストールガイド*』を参照してください。

コンソールモードまたはサイレントモードでインストーラを実行できます。

別のデータベースへの移行

ドメイン環境設定リポジトリのデータベースのタイプまたはバージョンのサポートが終了した場合は、リポジトリを別のサポートされるデータベースに移行する必要があります。ドメインをアップグレードする前に、以前の Informatica インスタンスのリポジトリを移行します。

注: ノード設定を変更しない場合は、アップグレード前に Informatica Upgrade Advisor を実行できます。設定の異なるノードに移行する前に Informatica Upgrade Advisor を実行すると、一部のデータベースやノードの設定に不具合が発生する可能性があります、それらの不具合は無視できます。

別のデータベースに移行する場合は、Informatica インストーラにある i10Pi を実行して、新しいデータベースタイプまたは新しいバージョンのインストールサポートをテストします。i10Pi の設定に関する詳細については、『*Informatica インストールガイド*』を参照してください。

製品要件およびサポートされているプラットフォームの詳細については、「[Product Availability Matrix](#)」を参照してください。

1. ドメインをシャットダウンします。
2. infasetup BackupDomain コマンドを使用して、ドメイン環境設定データベーステーブルがファイルにバックアップされていることを確認します。
3. データベーススキーマとユーザーアカウントをサポートされるデータベース中に作成します。
4. 別のデータベースでサポートされているインストールをテストするために作成したデータベースユーザーアカウントを使用して、Informatica インストーラにある i10Pi を実行します。このデータベースユーザーが、アップグレード後のバージョンでサポート対象であると i10pi に表示されることを確認します。
5. infasetup RestoreDomain コマンドを使用して、バックアップファイル中のドメイン環境設定を指定したデータベーススキーマにリストアします。
6. アップグレードインストーラを実行します。
7. ゲートウェイノードをアップグレードする場合は、**【ノードのホスト名とポート番号の変更を許可する】** オプションを選択します。このオプションを選択すると、新しいドメイン環境設定リポジトリデータベースに接続するようにゲートウェイノードを設定できます。すべてのゲートウェイノードには、ドメイン環境設定を取得および更新するためのドメイン環境設定リポジトリへの接続が必要です。作業ノードをアップグレードする場合は、**【ノードのホスト名とポート番号の変更を許可する】** オプションをオフにします。

別のマシンへのインストールの移行

サポートが終了しているオペレーティングシステムのマシンに Informatica サービスがインストールされている場合、ドメインをアップグレードする前に、別のマシンにそのインストールを移行する必要があります。

製品要件およびサポートされているプラットフォームの詳細については、「[Product Availability Matrix](#)」を参照してください。

ドメインをアップグレードする前に、新しいバージョンの Informatica を実行するマシン上で、次の手順を実行します。

1. Informatica インストーラから実行可能な i10Pi を使用して、新しいマシンのインストールサポートをテストします。
2. 以前のマシンから新しいマシンへ、すべてのインストールバイナリを含むインストールディレクトリをコピーします。
3. ポート要件を確認します。

4. システムユーザーアカウントを作成します。
5. データベースへのアクセスを必要とするすべてのサービスのネイティブ接続を構成します。
6. サポートされる新しいマシンでアップグレードインストーラを実行します。

移行したノードをアップグレードする場合は、**【ノードのホスト名とポート番号の変更を許可する】** オプションを選択します。このオプションを選択すると、新しいマシンのノードの設定を更新できます。別のマシンに移行しなかったドメイン内の他のノードをアップグレードする場合は、**【ノードのホスト名とポート番号の変更を許可する】** オプションをオフにします。

手順 1. インストールディレクトリのコピー

以前のバージョンの Informatica のディレクトリを、新しいバージョンの Informatica を実行するマシンにコピーします。

例えば、以前のバージョンの Informatica が `C:\Informatica\<version>` にインストールされている場合、`C:\Informatica\<version>` ディレクトリとサブディレクトリを新しいマシンにコピーします。

アップグレードインストーラを実行するとき、新しいマシン上の Informatica インストールディレクトリを、アップグレード対象のディレクトリとして指定します。

手順 2. ポート要件の確認

インストーラによって Informatica ドメイン内のコンポーネントのポートが設定され、一部のアプリケーションサービスに使用する動的ポートの範囲が指定されます。

コンポーネントに使用するポート番号と、アプリケーションサービスに使用する動的ポート番号の範囲を指定することができます。あるいは、インストーラによって提供されるデフォルトのポート番号を使用することができます。ポート番号が Informatica サービスをインストールするマシンで利用可能かどうかを確認します。

以下の表に、設定できるポートを示します。

ポート	説明
サービスマネージャポート	ノードのサービスマネージャが使用するポート番号。サービスマネージャは、このポートで受信する接続要求をリスンします。クライアントアプリケーションは、このポートを使用してドメインのサービスと通信します。 Informatica コマンドラインプログラムは、このポートを使用して、ドメインと通信します。このポートは、SQL データサービスの JDBC/ODBC ドライバ用のポートでもあります。デフォルトは 6006 です。
サービスマネージャのシャットダウンポート	ドメインのサービスマネージャに対するサーバーのシャットダウンを制御するポート番号。サービスマネージャは、このポートでシャットダウンコマンドをリスンします。デフォルトは 6007 です。
Informatica Administrator ポート	Informatica Administrator が使用するポート番号。デフォルトは 6008 です。
Informatica Administrator HTTPS ポート	デフォルトポートはありません。サービスの作成時に必要なポート番号を入力します。このポートを 0 に設定すると、管理者ツールへの HTTPS 接続が無効になります。
Informatica Administrator シャットダウンポート	Informatica Administrator のサーバーシャットダウンを制御するポート番号。Informatica Administrator は、このポートでシャットダウンコマンドをリスンします。デフォルトは 6009 です。

ポート	説明
最小ポート番号	このノードで実行するアプリケーションサービスプロセスに割り当てられる動的ポート番号範囲の最小ポート番号。デフォルトは 6014 です。
最大ポート番号	このノードで実行するアプリケーションサービスプロセスに割り当てられる動的ポート番号範囲の最大ポート番号。デフォルトは 6114 です。

注: ポートの競合がある場合、サービスおよびノードは起動に失敗する場合があります。アップグレード後に、アプリケーションサービスのポートの範囲を更新することができます。

手順 3. システムユーザーアカウントの作成

Informatica バックグラウンドプロセスを実行する専用のユーザーアカウントを作成します。

Informatica のインストールに使用するユーザーアカウントに、インストールディレクトリに対する書き込み権限があることを確認します。

手順 4. サービスマシンへのネイティブ接続の設定

アプリケーションサービスとデータベース間にネイティブ接続を確立するには、アクセスするデータベースのデータベースクライアントソフトウェアをインストールします。

ネイティブドライバは、データベースサーバーおよびクライアントソフトウェアにパッケージ化されています。データベースにアクセスする必要があるマシンに接続を設定します。アプリケーションサービスとデータベース間の互換性を確認するには、データベースバージョンと互換性のあるクライアントソフトウェアをインストールし、適切なデータベースクライアントライブラリを使用します。

データ統合サービスは、ネイティブデータベースドライバを使って次のデータベースに接続します。

- ソースデータベースとターゲットデータベース。ソースデータベースからデータを読み取って、ターゲットデータベースに書き込みます。
- データオブジェクトキャッシュデータベース。データオブジェクトキャッシュを保存します。
- Profiling ソースデータベース。リレーショナルソースデータベースから読み取って、プロファイルソースに対して実行します。
- プロファイリングウェアハウス。プロファイリング結果をプロファイリングウェアハウスに書き込みます。
- 参照テーブル。マッピングを実行して、参照テーブルと外部データソース間でデータを転送します。

データ統合サービスが単一のノードまたはプライマリノードやバックアップノードで実行されている場合は、データ統合サービスが実行されるマシンにデータベースクライアントソフトウェアをインストールして接続を設定します。

データ統合サービスがグリッドで実行されている場合は、計算ロールを持つノードまたはサービスロールと計算ロールの両方を持つノードの各マシンに、データベースクライアントソフトウェアをインストールして接続を設定します。

手順 5. データベースクライアントソフトウェアのインストール

アプリケーションサービスがアクセスするデータベースのタイプに基づいて、所定のマシンにデータベースクライアントをインストールする必要があります。

アプリケーションサービスとデータベース間の互換性を確保するには、適切なデータベースクライアントライブラリを使用して、そのデータベースバージョンと互換性のあるクライアントソフトウェアをインストールします。

Informatica サービスをアップグレードするときは、データ統合サービスを実行するマシンに適切なデータベースクライアントをインストールしてください。

アプリケーションサービスがアクセスするデータベースのタイプに基づいて、次のデータベースクライアントソフトウェアをインストールします。

IBM DB2 Client Application Enabler (CAE)

所定のマシンに Informatica サービスを起動するユーザーとして接続し、そのマシンの接続を設定します。

Microsoft SQL Server 2014 Native Client

既存のマッピングが機能するためには Microsoft SQL Server 2014 Native Client をインストールする必要があります。

次の Microsoft の Web サイトからクライアントをダウンロードします。

<http://www.microsoft.com/en-in/download/details.aspx?id=42295>.

Oracle クライアント

互換性のあるバージョンの Oracle クライアントと Oracle データベースサーバをインストールします。また、必要とするすべてのマシンに Oracle クライアントの同じバージョンをインストールする必要があります。互換性を確認するには、Oracle に問い合わせてください。

Sybase Open Client (OCS)

Sybase ASE データベースサーバと互換性のあるバージョンの Open Client をインストールします。また、Sybase ASE データベースおよび Informatica をホストするマシンに同じバージョンの Open Client をインストールする必要もあります。互換性を確認するには、Sybase に問い合わせてください。

手順 6. データベースクライアントの環境変数の設定

データ統合サービスプロセスが実行されるマシンで、データベースクライアントの環境変数を設定します。

データベース環境変数の設定後、データベースとデータベースクライアント間の接続をテストできます。

次の表に、UNIX に設定する必要があるデータベース環境変数を示します。

データベース	環境変数名	データベースユーティリティ	値
Oracle	ORACLE_HOME PATH[PATH]	sqlplus	設定: <DatabasePath> 追加: <DatabasePath>/bin
IBM DB2	DB2DIR DB2INSTANCE PATH[PATH]	db2connect	設定: <DatabasePath> 設定: <DB2InstanceName> 追加: <DatabasePath>/bin
Sybase ASE	SYBASE15 SYBASE_ASE SYBASE_OCS PATH[PATH]	isql	設定: <DatabasePath>/sybase<version> 設定: \${SYBASE15}/ASE-<version> 設定: \${SYBASE15}/OCS-<version> 追加: \${SYBASE_ASE}/bin:\${SYBASE_OCS}/bin:\${PATH}

コンソールモードでのアップグレード

コンソールモードでアップグレードする場合は、ドメインを別のマシンまたは別のドメイン環境設定リポジトリデータベースにアップグレードするようにノード設定を変更できます。Linux または UNIX では、ドメインをコンソールモードでアップグレードできます。

コンソールモードでインストーラを実行する場合、Quit および Back という単語は予約語です。これらの単語を入力テキストで使用しないでください。

1. シェルコマンドラインで、ルートディレクトリにある install.sh ファイルを実行します。
ロケール環境変数が設定されていることを確認するよう求めるメッセージが表示されます。
2. 環境変数が設定されていない場合は、**N** キーを押してインストーラを終了し、必要に応じて環境変数を設定します。
環境変数が設定されている場合は、**Y** キーを押して続行します。
3. Informatica をアップグレードするために、**2** キーを押します。

Informatica には、Informatica サービスのインストールプロセスを簡単にするユーティリティがあります。Informatica サービスをアップグレードする前に、次のユーティリティを実行できます。
Informatica Upgrade Advisor。

アップグレードを実行する前にサービスを検証し、廃止されたサービスがドメインにないか確認します。

アップグレードを続行する前にアップグレードする Informatica ドメインをシャットダウンするよう求める警告が表示されます。

4. **Informatica 10.5.3** にアップグレードするには、Informatica 10.5.8 キーを押します。
5. Informatica 製品使用ツールキットの契約条項を読んでから **[2]** を押してアップグレードを続行します。
以下のオプトアウトの権利の制限の下、本ソフトウェアによって、本ソフトウェアがデプロイされているコンピューティングおよびネットワーク環境に関する情報、デプロイメントのデータ使用状況およびシステム統計情報が米国の Informatica に自動的に送信されます。この送信は Informatica のプライバシーポリシーの下にサービスの一部と見なされ、Informatica は、[Informatica privacy policy](#) に従って、この情

報を使用または処理します。Administrator ツールでは、使用状況データの収集を無効にすることができません。

6. **【アップグレードの前提条件】** ページに、アップグレードのシステム要件が表示されます。
アップグレードを続行する前に、要件を確認します。
7. プロンプトで、アップグレードするバージョンの Informatica が含まれるディレクトリと、Informatica 10.5.8 をインストールするディレクトリを入力します。
次の表に、指定する必要があるディレクトリを示します。

ディレクトリ	説明
アップグレードする Informatica 製品のディレクトリ	アップグレードする Informatica サービスのバージョンを含むディレクトリ。
Informatica のディレクトリ	Informatica のインストール先ディレクトリ。 インストールディレクトリへの絶対パスを入力します。以前のバージョンの Informatica サービスを含むディレクトリと同じディレクトリは使用できません。また、パスのディレクトリ名にスペースまたは次の特殊文字を含めることはできません。@ * \$ # ! % () { } [] , ; ' 注: インストールディレクトリパスには、英数字を使用することを推奨します。á や € などの特殊文字を使用すると、実行時に予期しない結果が生じることがあります。 Windows の場合、インストールディレクトリが、現在のマシンに存在する必要があります。

8. ノードのホスト名とポート番号の変更を許可するには、**2** と入力します。
アップグレードする Informatica のインストールの設定を変更するには、このオプションを使用します。別のマシンにアップグレードしている場合、ノード設定を新しいマシンの設定に合わせて変更します。別のドメイン環境設定リポジトリデータベースにアップグレードしている場合、ノード設定を新しいデータベースの設定に合わせて変更します。
9. Informatica インストーラを使用してディストリビューションパッケージをインストールするかどうかを選択します。
 - ディストリビューションパッケージが必要ない場合、または後でインストールする場合は、**1** を押します。
 - インストーラを使用してディストリビューションパッケージをインストールする場合は、**2** を押します。デフォルトは 1 です。
10. ディストリビューションパッケージのインストールを選択した場合は、リストからインストールするパッケージを 1 つ以上選択します。複数のパッケージがある場合はカンマで区切ります。
デフォルトは 1 です。
11. Informatica ドメインに使用する暗号化キーのディレクトリを入力します。
Informatica では、Informatica ドメインに保存される機密データ（パスワードなど）を暗号化キーを使用して保護します。アップグレードする場合は、アップグレードしているノード上の暗号化キーを保存するディレクトリを入力する必要があります。
注: Informatica ドメインのすべてのノードは、同じキーワードおよび暗号化キーを使用します。ドメイン名、暗号化キーのキーワード、および暗号化キーファイルは安全な場所に保管する必要があります。ドメ

インの暗号化キーを変更するときや、リポジトリを別のドメインに移すときに暗号化キーが必要になります。

プロパティ	説明
暗号化キーディレクトリ	ドメインに対する暗号化キーを格納するディレクトリです。デフォルトでは、暗号化キーは次のディレクトリに作成されます: <Informatica installation directory>\isp\config\keys

12. Informatica ドメインのユーザー名とパスワードを入力します。
13. アップグレード情報を確認し、**[Enter]** キーを押して続行します。
インストーラによって、サーバーファイルが Informatica 10.5.8 のインストールディレクトリにコピーされます。
アップグレードを続行する前にアップグレードする Informatica ドメインをシャットダウンするよう求める警告が表示されます。
14. **Enter** キーを押します。
15. ゲートウェイノードをアップグレードする場合は、ドメイン環境設定リポジトリに使用するデータベースを選択します。
作業ノードをアップグレードしている場合は、ドメイン環境設定リポジトリの情報は表示されません。データベース接続情報は変更できません。手順 [18](#) に進みます。
以下の表に、ドメイン環境設定リポジトリに使用できるデータベースを示します。

プロンプト	説明
データベースタイプ	ドメイン環境設定リポジトリ用データベースのタイプ。次のオプションから選択します。 1 - Oracle 2 - Microsoft SQL Server 3 - IBM DB2 4 - Sybase ASE 5 - PostgreSQL

16. データベースユーザーアカウントのプロパティを入力します。
以下の表に、データベースユーザーアカウントのプロパティを示します。

プロパティ	説明
データベースユーザー ID	ドメイン設定データベースのユーザーアカウントの名前。
ユーザーパスワード	ドメイン環境設定データベースのユーザーアカウントのパスワードです。

17. データベースのパラメータを入力します。セキュアなドメイン環境設定リポジトリを作成しない場合は、データベース用のパラメータを入力します。
 - a. IBM DB2 を選択した場合は、テーブルスペースを設定するかどうかを選択し、テーブルスペース名を入力します。

以下の表に、IBM DB2 データベースに設定する必要があるプロパティを示します。

プロパティ	説明
テーブルスペースの設定	単一パーティションのデータベースでは、いいえを選択した場合、インストーラによりデフォルトのテーブルスペースにテーブルが作成されます。複数パーティションのデータベースでは、はいを選択する必要があります。 テーブルスペースを指定するかどうかを選択します。 1 - いいえ 2 - はい
テーブルスペース	テーブルを作成するテーブルスペースの名前です。pageSize の要件である 32768 バイトを満たすテーブルスペースを指定します。 単一パーティションのデータベースでは、テーブルを作成するテーブルスペースの名前を入力します。 複数パーティションのデータベースでは、データベースのカatalogパーティション内に存在するパーティション化されていないテーブルスペースの名前を指定します。

- b. Microsoft SQL Server を選択した場合は、データベースのスキーマ名を入力します。

以下の表に、Microsoft SQL Server データベースに設定する必要があるプロパティを示します。

プロパティ	説明
スキーマ名	ドメイン設定テーブルを含むスキーマの名前です。このパラメータが空白の場合、インストーラによりデフォルトのスキーマにテーブルが作成されます。

- c. JDBC URL 情報を使用して JDBC 接続情報を入力するには、**1** を押します。カスタム JDBC 接続文字列を使用して JDBC 接続情報を入力するには、**2** を押します。
- d. JDBC 接続情報を入力します。
- JDBC の URL 情報を使用して接続情報を入力するには、JDBC の URL のプロパティを指定します。
以下の表に、データベース接続情報を示します。

プロンプト	説明
データベースホスト名	データベースのホスト名。
データベースポート番号	データベースのポート番号。

プロンプト	説明
データベースサービス名	サービスまたはデータベースの名前: - Oracle: サービス名を入力します。 - Microsoft SQL Server: データベース名を入力します。 - IBM DB2: サービス名を入力します。 - Sybase ASE: データベース名を入力します。 - PostgreSQL: データベース名を入力します。
JDBC パラメータの設定	追加の JDBC パラメータを接続文字列に追加するかどうかを選択します。 1 - はい 2 - いいえ [はい] を選択する場合は、パラメータを入力するか Enter キーを押してデフォルトを受け入れます。[いいえ] を選択した場合は、インストールによりパラメータを使用せずに JDBC 接続文字列が作成されます。

- カスタム JDBC 接続文字列を使用して接続情報を入力するには、接続文字列を入力します。JDBC 接続文字列で次の構文を使用します。

IBM DB2

```
jdbc:Informatica:db2://<host name>:<port number>;DatabaseName=
```

Oracle

```
jdbc:Informatica:oracle://<host name>:<port number>;ServiceName=
```

Oracle database through Oracle Connection Manager を介して Oracle データベースに接続するには、次の接続文字列を使用します。

```
jdbc:Informatica:oracle:TNSNamesFile=<fully qualified path to the tnsnames.ora file>;TNSServerName=<TNS name>;
```

Microsoft SQL Server

```
jdbc:Informatica:sqlserver://<host name>:<port number>;SelectMethod=cursor;DatabaseName=
```

Windows NT 資格情報を使用する Microsoft SQL Server

Microsoft SQL Server でのモデルリポジトリデータベースの Windows NT 資格情報を指定した場合は、接続文字列構文を指定して、認証方法を NTLM として含めます。

Windows NT 資格情報を持つデフォルトインスタンスを使用する Microsoft SQL Server:

```
"jdbc:informatica:sqlserver://<host name>:<port number>;DatabaseName=<database name>;SnapshotSerializable=true;authenticationMethod=NTLM"
```

Windows NT 資格情報を持つ名前付きインスタンスを使用する Microsoft SQL Server:

```
"jdbc:informatica:sqlserver://<host name>\<named instance name>;DatabaseName=<database name>;SnapshotSerializable=true;authenticationMethod=NTLM"
```

Microsoft Azure SQL

```
jdbc:Informatica:sqlserver://  
host_name:port_no;SelectMethod=cursor;DatabaseName=database_name;SnapshotSerializable=true;EncryptionMethod=SSL;HostNameInCertificate=*.database.windows.net;ValidateServerCertificate=false
```

Active Directory 認証を使用する Azure SQL Database

```
jdbc:informatica:sqlserver://
<host_name>:<port_number>;database=<database_name>;encrypt=true;AuthenticationMethod=ActiveDi
rectoryPassword;trustServerCertificate=false;hostNameInCertificate=*.database.windows.net;log
inTimeout=<seconds>
```

PostgreSQL

```
jdbc:Informatica:postgresql://<host name>:<port number>;DatabaseName=
```

Azure PostgreSQL

```
jdbc:Informatica:postgresql://<host name>:<port number>;DatabaseName=<database
name>;EncryptionMethod=SSL;ValidateServerCertificate=true;CryptoProtocolVersion=TLsv1.2;
```

Sybase

```
jdbc:Informatica:postgresql://<host name>:<port number>;DatabaseName=
```

データベースシステムで必要とされる接続パラメータがすべて接続文字列に含まれていることを確認します。

- 新しいバージョンの Informatica の設定に合わせて、ノードのホスト名とポート番号を変更します。
以下の表に、指定可能なドメインとノードのプロパティを示します。

プロパティ	説明
ドメイン名	ドメインの名前。デフォルトのドメイン名は、Domain_<MachineName> です。名前は 128 文字以下で、7 ビットの ASCII 文字のみにする必要があります。スペースまたは次のいずれかの文字は使用できません: ` % * + ; " ? , < > \ /
ノード名	アップグレードするノードの名前。
ノードのホスト名	アップグレードするノードをホストするマシンのホスト名。マシンが 1 つのネットワーク名を持つ場合は、デフォルトのホスト名を使用します。マシンが複数のネットワーク名を持つ場合は、デフォルトのホスト名を変更して別のネットワーク名を使用します。必要に応じて、IP アドレスを使用できます。 注: localhost は使用しないでください。ホスト名はマシンを明示的に示す必要があります。
カスタムキーストアのパスワード	カスタムキーストアファイルのプレーンテキストパスワード。カスタムキーストアファイルを使用して Informatica Administrator を保護し、別のゲートウェイノード設定にアップグレードする場合は、カスタムキーストアパスワードを入力します。
カスタムキーストアファイル	カスタムキーストアファイルのパスとファイル名。カスタムキーストアファイルを使用して Informatica Administrator を保護し、別のゲートウェイノード設定にアップグレードする場合は、カスタムキーストアファイルを入力します。 このフィールドを空白にすると、インストーラは以下のディレクトリでキーストアファイルを探します。 <Informatica installation directory>\tomcat\conf\
ノードのポート番号	アップグレードするノードのポート番号。ノードのデフォルトのポート番号は 6005 です。

プロパティ	説明
ゲートウェイノードのホスト名	ドメインのゲートウェイノードをホストするマシンのホスト名です。作業ノードをアップグレードする場合に使用できます。
ゲートウェイノードのポート番号	ゲートウェイノードのポート番号。作業ノードをアップグレードする場合に使用できます。

19. ドメインコンポーネントに割り当てられているポート番号が表示されます。
 ポート番号を指定するか、デフォルトのポート番号を使用することができます。
 以下の表に、指定可能なポートを示します。

ポート	説明
サービスマネージャポート	ノードのサービスマネージャが使用するポート番号。クライアントアプリケーションおよび Informatica コマンドラインプログラムは、このポートを使用してドメインのサービスと通信します。
サービスマネージャのシャットダウンポート	ドメインのサービスマネージャに対するサーバーのシャットダウンを制御するポート番号。サービスマネージャは、このポートでシャットダウンコマンドをリスンします。
Informatica Administrator ポート	Administrator ツールで使用されるポート番号。ゲートウェイノードをアップグレードする場合に使用できます。
Informatica Administrator シャットダウンポート	Administrator ツールがシャットダウンコマンドをリスンするために使用するポート番号。ゲートウェイノードをアップグレードする場合に使用できます。

[インストール後のサマリ] ウィンドウには、アップグレードが正常に完了したかどうかを示すメッセージが表示されます。また、インストールされたコンポーネントとその設定のステータスも表示されます。

アップグレードログファイルを表示して、インストーラが実行したアップグレードタスクの詳細およびインストールされたコンポーネントの設定プロパティを確認できます。

サイレントモードでのアップグレード

サイレントモードでアップグレードする場合は、ドメインを別のマシンまたは別のドメイン環境設定リポジトリデータベースにアップグレードするようにノード設定を変更できます。

ユーザーの操作なしで Informatica サービスをアップグレードするには、サイレントモードでアップグレードします。プロパティファイルを使用してアップグレードオプションを指定します。インストーラはファイルを読み込んでアップグレードオプションを確認します。サイレントモードのアップグレードを使用して、ネットワーク上の複数のマシンで Informatica サービスをアップグレードするか、マシン間でアップグレードプロセスを標準化します。

Informatica インストールファイルを、アップグレードする予定の Informatica インスタンスをホストするマシンにコピーします。

サイレントモードでアップグレードするには、以下のタスクを実行します。

1. アップグレードプロパティファイルを作成し、アップグレードオプションを指定します。
2. アップグレードプロパティファイルを使用して、インストーラを実行します。
3. アップグレードプロパティファイル内のパスワードを保護します。

ノード設定の変更の完了

Informatica サービスのインストールを別のマシンに移行したという理由で、ドメインのアップグレード中にノード設定の変更を選択した場合は、アプリケーションサービスをアップグレードする前に追加のタスクを実行する必要があります。

次の追加タスクを実行する必要があります。

1. 環境変数を設定します。
2. 動的ポート番号の範囲の確認
3. ノードバックアップディレクトリの場所を確認します。
4. PowerExchange® アダプタを設定します。

注: ドメイン環境設定リポジトリを別のデータベースに移行したという理由で、ドメインのアップグレード時にノード設定の変更を選択した場合は、追加のタスクを実行する必要はありません。

ブラウザのキャッシュをクリアする

Administrator ツールにアクセスする前に、ブラウザキャッシュをクリアします。

Windows Internet Explorer では、一時ファイル、クッキー、履歴などの閲覧履歴を削除します。

ブラウザキャッシュをクリアしない場合、以前の Administrator ツールの URL が最新の URL にリダイレクトされず、一部のメニューオプションが表示されないことがあります。

ロケール環境変数の設定

LANG、LC_CTYPE、または LC_ALL を使用して、UNIX コードページを設定します。

異なる UNIX オペレーティングシステムには、同じロケールに対して異なる値が必要です。ロケール変数の値は、大文字と小文字が区別されます。

以下のコマンドを使用して、ロケール環境変数がマシンの言語設定、およびリポジトリで使用するコードページのタイプと互換性があることを確認します。

```
locale -a
```

このコマンドでは、UNIX オペレーティングシステムにインストールされている言語、および既存のロケールの設定が返されます。

Linux のロケール

Linux 以外のすべての UNIX オペレーティングシステムでは、各ロケールに対して一意の値を持っています。Linux では、さまざまな値を使用して同じロケールを表すことができます。たとえば、「utf8」、「UTF-8」、「UTF8」、および「utf-8」は、Linux マシンでは同じロケールを表しています。Informatica では、Linux マシンでロケールごとに特定の値を使用する必要があります。すべての Linux マシンについて、LANG 環境変数が適切に設定されていることを確認してください。

Oracle データベースクライアントのロケール

Oracle データベースクライアントの場合は、データベースクライアントおよびサーバーへのログインで使用するロケールに NLS_LANG を設定します。ロケール設定は、言語、地域、および文字セットから構成されています。NLS_LANG の値は、設定に応じて異なります。

例えば、値が american_america.UTF8 の場合、C シェルでは次のコマンドで変数を設定します。

```
setenv NLS_LANG american_america.UTF8
```

マルチバイト文字をデータベースから読み取るには、次のコマンドで変数を設定します。

```
setenv NLS_LANG=american_america.AL32UTF8
```

データ統合サービスが Oracle データを正常に読み取ることができるように、データ統合サービスマシンに正しい変数を設定する必要があります。

ライブラリパス環境変数の設定

データ統合サービスのプロセスが実行されるマシンで、ライブラリパスの環境変数を設定します。変数名と要件は、プラットフォームとデータベースによって異なります。

LD_LIBRARY_PATH 環境変数を設定します。

以下の表に、各種データベースの LD_LIBRARY_PATH に対して設定する値を示します。

データベース	値
Oracle	<データベースパス>/lib
IBM DB2	<データベースパス>/lib
Sybase ASE	「\${SYBASE_OCS}/lib:\${SYBASE_ASE}/lib:\${LD_LIBRARY_PATH}」
Teradata	<データベースパス>/lib
ODBC	<CLOSEDODBCHOME>/lib
PostgreSQL	\$PGHOME/lib:\${LD_LIBRARY_PATH}

動的ポート番号の範囲の確認

移行されたノードをアップグレードする場合、アップグレードウィザードは、ノードで実行されるアプリケーションサービスプロセスに動的に割り当てられるデフォルトの範囲のポート番号を割り当てます。

動的ポート番号のデフォルトの範囲は、6013～6113 です。Informatica の新しいバージョンを実行するマシンで、ポート番号のデフォルトの範囲が使用可能になっていることを確認します。このポート番号の範囲を使用できない場合は、Administrator ツールを使用して範囲を更新します。ノードの【プロパティ】ビューの【詳細プロパティ】セクションで、サービスプロセスの動的ポート番号の最小値と最大値を設定します。

ノードバックアップディレクトリの確認

Informatica の新しいバージョンを実行するマシンで、ノードのバックアップディレクトリにアクセスできることを確認します。Administrator ツールで、ノードの【プロパティ】ビューの【詳細プロパティ】セクションの【バックアップディレクトリ】プロパティを表示します。

PowerExchange アダプタの設定

以前のインストールに PowerExchange アダプタが含まれていた場合は、アップグレードされたバージョンの Informatica を実行するマシンで PowerExchange アダプタを設定します。PowerExchange アダプタのインストーラがある場合は、PowerExchange アダプタを再インストールします。

第 6 章

アプリケーションサービスのアップグレード

この章では、以下の項目について説明します。

- [アプリケーションサービスのアップグレードの概要, 45 ページ](#)
- [アップグレードウィザードの実行, 46 ページ](#)
- [モデルリポジトリサービスのアップグレードの確認, 47 ページ](#)

アプリケーションサービスのアップグレードの概要

アプリケーションサービスのアップグレードプロセスは、アップグレード前の Informatica サービスのバージョンによって決まります。

Informatica サービスの各バージョンでは、アプリケーションサービスのアップグレードが必要となります。アプリケーションサービスをアップグレードする場合、依存サービスもアップグレードする必要があります。アプリケーションサービスのアップグレード時には、アップグレードプロセスによって、そのサービスに関連付けられたデータベースのデータベースコンテンツがアップグレードされます。

[サービスアップグレード] ウィザード、各サービスの [アクション] メニュー、またはコマンドラインを使用してアプリケーションサービスをアップグレードします。サービスアップグレードウィザードは、適切な順序で複数のサービスをアップグレードし、依存関係をチェックします。各サービスの [アクション] メニューまたはコマンドラインを使用してアプリケーションサービスをアップグレードする場合は、適切な順序でアプリケーションサービスをアップグレードし、依存サービスをアップグレードしたことを確認する必要があります。

アプリケーションサービスのアップグレードに必要な特権は、サービスによって異なります。

サービスをアップグレードする特権

アプリケーションサービスのアップグレードに必要な特権は、アプリケーションサービスによって異なります。

サービスアップグレードウィザードにアクセスするには、ドメインに対する管理者ロールが必要です。

以下のアプリケーションサービスをアップグレードするには、ユーザーにこれらのロール、特権、および権限が必要です。

モデルリポジトリサービス

サービスのアップグレードウィザードを使用してモデルリポジトリサービスをアップグレードするには、ユーザーに以下の資格情報が必要です。

- ドメインの管理者ロール。
- モデルリポジトリサービスに対する、プロジェクトの作成、編集、および削除の特権、プロジェクトへの書き込み権限。

[アクション] メニューまたはコマンドラインからモデルリポジトリサービスをアップグレードするには、ユーザーに次の資格情報が必要です。

- ドメインに対するサービスの管理特権、およびモデルリポジトリサービスでの権限。
- モデルリポジトリサービスに対する、プロジェクトの作成、編集、および削除の特権、プロジェクトへの書き込み権限。

データ統合サービス

データ統合サービスをアップグレードするには、ユーザーにデータ統合サービスでの管理者ロールが必要です。

コンテンツ管理サービス

コンテンツ管理サービスをアップグレードするには、ユーザーにコンテンツ管理サービスでの管理者ロールが必要です。

以前のバージョンからのサービスアップグレード

以前のバージョンからアップグレードする場合、一部のアプリケーションサービスでアップグレードが必要です。前のバージョンで使用したアプリケーションサービスをアップグレードします。

アプリケーションサービスがすべて有効になっていることを確認します。

アプリケーションサービスをアップグレードするには、次のサービスと関連データベースをこの順にアップグレードします。

1. モデルリポジトリサービス
2. データ統合サービス
3. データ統合サービスのプロファイリングウェアハウス

注: 他のアプリケーションサービスをすべてアップグレードする場合は、アップグレードプロセスによって、サービスに関連付けられたデータベースのデータベースコンテンツがアップグレードされます。

アップグレードウィザードの実行

アプリケーションサービスと、サービスに関連付けられたデータベースのデータベースコンテンツのアップグレードには、サービスアップグレードウィザードを使用します。サービスアップグレードウィザードには、アップグレードが必要なサービスと関連するデータベースとともにアップグレード済みのサービスのリストが表示されます。現在または前のアップグレードレポートを保存することもできます。

1. Informatica Administrator のヘッダ領域で、**[管理]** > **[アップグレード]** をクリックします。
2. アップグレードするアプリケーションサービスと関連データベースを選択します。
3. 必要に応じて、**[アップグレード後、サービスが自動的に再起動します]** を指定します。

アップグレード後にアプリケーションサービスを自動的にリサイクルすることを選択した場合は、アップグレードウィザードによってサービスがアップグレード後に再起動されます。

4. **【次へ】** をクリックします。
5. 依存関係エラーが存在する場合は、**【依存関係エラー】** ダイアログボックスが表示されます。依存関係エラーを確認し、**【OK】** をクリックします。次に、依存関係エラーを解決して **【次へ】** をクリックします。
6. リポジトリログイン情報を入力します。
7. **【次へ】** をクリックします。
サービスアップグレードウィザードによって各アプリケーションサービスと関連データベースがアップグレードされ、ステータスと処理の詳細が表示されます。
8. アップグレードが完了すると、**【サマリ】** セクションにアプリケーションサービスとアップグレードステータスのリストが表示されます。各サービスをクリックすると、**【サービスの詳細】** セクションにアップグレードの詳細が表示されます。
9. 必要に応じて、**【レポートの保存】** をクリックして、アップグレードの詳細をファイルに保存します。
レポートを保存しないことにした場合は、次回サービスアップグレードウィザードを起動したときに **【前のレポートの保存】** をクリックできます。
10. **【閉じる】** をクリックします。
11. アップグレード後にアプリケーションサービスを自動的にリサイクルすることを選択しなかった場合は、アップグレードしたサービスを再起動します。

アップグレードレポートを表示し、保存できます。2 回目にサービスアップグレードウィザードを実行する場合、**【前のレポートの保存】** オプションが表示されます。サービスをアップグレードした後にアップグレードレポートを保存しなかった場合は、このオプションを選択して、前回のアップグレードレポートを表示または保存できます。

モデルリポジトリサービスのアップグレードの確認

モデルリポジトリサービスをアップグレード後は、モデルリポジトリサービスログをチェックしてアップグレードが正常に完了したことを確認します。

オブジェクト依存関係のグラフ

モデルリポジトリサービスをアップグレードする場合、アップグレードプロセスはモデルリポジトリのコンテンツをアップグレードし、オブジェクトの依存関係のグラフを再作成します。

アップグレードプロセスでモデルリポジトリのコンテンツのアップグレード中に致命的なエラーが発生した場合、サービスのアップグレードは失敗します。Administrator ツールまたはコマンドラインプログラムによって、アップグレードをもう一度実行する必要があることが知らされます。

オブジェクト依存関係のグラフの再構築中にアップグレードプロセスで致命的なエラーが発生する場合、サービスのアップグレードは成功します。オブジェクト依存関係のグラフを再構築するまでは、Developer tool でオブジェクトの依存関係を表示することはできません。

モデルリポジトリサービスをアップグレードした後、モデルリポジトリサービスログに次のメッセージが含まれることを確認します。

```
MRS_50431 "Finished rebuilding the object dependency graph for project group '<project group>'."
```

ログにこのメッセージが存在しない場合は、`infacmd mrs rebuildDependencyGraph` コマンドを実行してオブジェクト依存関係のグラフを再構築します。この再構築プロセスが完了するまで、モデルリポジトリオブジ

エクトにユーザーアクセスがあってはなりません。完了前にユーザーがアクセスすると、オブジェクト依存関係のグラフが正確でなくなることがあります。サービスのアップグレードを行う前にモデルリポジトリサービスからログアウトするようユーザーに要請します。

infacmd mrs rebuildDependencyGraph コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
rebuildDependencyGraph
<-DomainName|-dn> domain_name
[<-SecurityDomain|-sdn> security_domain]
<-UserName|-un> user_name
<-Password|-pd> password
<-ServiceName|-sn> service_name
[<-ResilienceTimeout|-re> timeout_period_in_seconds]
```

Model Repository サービスの詳細プロパティ

モデルリポジトリサービスをアップグレードした後、最大ヒープサイズと MaxMetaspaceSize 値を設定することができます。サービスをアップグレードする前に、**-Xss** 値を設定します。サービスをアップグレードした後に、**-Xss** 値をリセットする必要があります。

モデルリポジトリサービスについて、以下の詳細プロパティを設定してください。

最大ヒープサイズ

プロセスをアップグレードする前に、モデルリポジトリサービスの**最大ヒープサイズ**プロパティ値が 4GB 未満である場合、このプロパティ値を 4GB に設定することができます。アップグレードした後、プロパティ値をアップグレード前の値にリセットするか、またはグローバルカスタマサポートがお使いの環境で推奨している値へリセットします。

JVM コマンドラインオプション

-Xss JVM コマンドラインオプションを設定します。モデルリポジトリサービスアップグレードをアップグレードする前に、**-Xss** 値を 1m に設定します。アップグレードした後、**-Xss** オプションをアップグレード前の値にリセットします。デフォルト値は 512k です。

モデルリポジトリサービスに詳細プロパティ値を設定するには、> **サービスおよびノードの管理**に移動して、モデルリポジトリサービスを選択し、**プロパティ** > **詳細プロパティ**セクションを編集します。

第 7 章

Informatica クライアントのアップグレード

この章では、以下の項目について説明します。

- [Informatica クライアントのアップグレードの概要, 49 ページ](#)
- [Informatica クライアントをアップグレードする前に, 49 ページ](#)
- [グラフィカルモードでのアップグレード, 50 ページ](#)
- [サイレントモードでのアップグレード, 51 ページ](#)
- [アップグレードした後に, 53 ページ](#)

Informatica クライアントのアップグレードの概要

クライアントインストーラを使用して Informatica クライアントツールの以前のバージョンをアップグレードします。アップグレードする製品に応じて、Developer ツール、PowerCenter Client、またはその両方をアップグレードできます。

アップグレードするクライアントをホストするすべてのマシンでインストーラを実行します。以下のいずれかの方法で Informatica クライアントツールをアップグレードできます。

- グラフィカルモードでのアップグレード。Informatica クライアントツールをグラフィカルモードでアップグレードします。インストーラを使用してアップグレードプロセスを実行できます。
- サイレントモードでのアップグレード。アップグレードオプションを含むプロパティファイルを使用して Informatica クライアントツールをアップグレードします。

アップグレードプロセスでは、JRE ライブラリと DataDirect ODBC ドライバもアップグレードされます。

アップグレードは、インストールファイルをダウンロードしたディレクトリのルートから実行できます。

Informatica クライアントをアップグレードする前に

インストールの前提条件および最小要件を満たしていることを確認します。Informatica クライアントツールをアップグレードするマシンが正しく設定されていない場合、アップグレードに失敗する場合があります。

インストーラパッケージのチェックサムの確認

クライアントインストーラを実行する前に、cksum コマンドを使用してインストールパッケージの整合性を確認します。cksum コマンドは、インストーラのチェックサム値を計算します。

Informatica 電子ソフトウェアダウンロードサイトからダウンロードしたインストールファイルのチェックサムに対して、特定のインストーラファイルのチェックサムを確認します。

次の表に、Windows での Informatica クライアントのチェックサムとファイルサイズを示します。

ファイル	チェックサム値	ファイルサイズ
informatica_1058_client_winem-64t.zip	87005947	3921362250 バイト

チェックサムの不一致は、ネットワークの問題が原因でダウンロード中にデータエラーが発生した場合、またはディスク上のファイルでデータの破損が発生した場合に発生する可能性があります。チェックサムエラーの詳細については、[HOW TO: Identify file errors after downloading Informatica installation files](#) を参照してください。

Informatica Developer の要件の確認

以下の表に、Informatica Developer をアップグレードするための最小要件を示します。

コンポーネント	要件
プロセッサ	1 CPU
RAM	1 GB
ディスク容量	8.505GB

グラフィカルモードでのアップグレード

グラフィカルモードでアップグレードする場合は、アップグレードするバージョンに関する情報と、アップグレードに関連付けられているディレクトリに関する情報を指定します。

- すべてのアプリケーションを終了します。
- ルートディレクトリから install.bat を実行します。
問題が発生した場合は、次の場所から install.exe を実行します。
<Informatica installation directory>\client
- Informatica のインストールおよび製品使用ツールキットの利用規約をお読みになったら **【契約条項に同意します】** を選択します。

以下のオプトアウトの権利の制限の下、本ソフトウェアによって、本ソフトウェアがデプロイされているコンピューティングおよびネットワーク環境に関する情報、デプロイメントのデータ使用状況およびシステム統計情報が米国の Informatica に自動的に送信されます。この送信は Informatica のプライバシーポリシーにおいてサービスの一部と見なされ、Informatica は、

<https://www.informatica.com/in/privacy-policy.html> のプライバシーポリシーに従って、この情報を使用または処理します。使用状況の収集は、Administrator ツールで無効にすることができます。

- a. 契約条項に同意しない場合は、**1** キーを押します。
- b. 契約条項に同意する場合は、**2** キーを押します。
4. インストールを続行する前に、**【アップグレード前提条件】** ページでシステム要件を確認し、**【次へ】** をクリックします。
5. **【ディレクトリの選択】** ページで、Informatica バージョンのディレクトリとソースディレクトリおよびターゲットディレクトリを入力します。

次の表に、指定するディレクトリを示します。

ディレクトリ	説明
アップグレードする Informatica クライアントのディレクトリ	アップグレードする Informatica クライアントツールのバージョンを含むディレクトリ
のクライアントツールのディレクトリ	クライアントツールをインストールするディレクトリ。 インストールディレクトリへの絶対パスを入力します。インストールディレクトリは、現在のマシンに存在する必要があります。パスのディレクトリ名には、スペースまたは次の特殊文字を含めることはできません: @ * \$ # ! % () { } [] , ; ' 注: インストールディレクトリパスには、英数字を使用することを推奨します。á や € などの特殊文字を使用すると、実行時に予期しない結果が生じることがあります。

6. **【次へ】** をクリックします。
7. **【インストール前のサマリ】** ページで、インストール情報を確認し、**【インストール】** をクリックします。
インストーラによって、Informatica クライアントファイルがインストールディレクトリにコピーされます。
8. **【インストール後のサマリ】** ページで、アップグレードが成功したかどうかを確認し、**【完了】** をクリックしてインストーラを終了します。
9. クライアントのアップグレード完了後、Windows マシンをログオフしてからもう一度ログオンし、システム設定を完了します。

インストーラログファイルを参照すると、インストーラで実行されるアップグレードタスクの詳細を取得できます。

サイレントモードでのアップグレード

ユーザーの操作なしで Informatica クライアントツールをアップグレードするには、サイレントモードでアップグレードします。プロパティファイルを使用してアップグレードオプションを指定します。インストーラはファイルを読み込んでアップグレードオプションを確認します。サイレントモードのアップグレードを使用して、ネットワーク上の複数のマシンで Informatica クライアントツールをアップグレードするか、マシン間でアップグレードプロセスを標準化します。

Informatica インストールファイルを、アップグレードする予定の Informatica クライアントをホストするマシン上のハードディスクにコピーします。

サイレントモードでアップグレードするには、以下のタスクを実行します。

1. アップグレードプロパティファイルを作成し、アップグレードオプションを指定します。
2. アップグレードプロパティファイルを使用して、インストーラを実行します。

プロパティファイルの作成

Informatica は、インストーラに必要なアップグレードパラメータを含むサンプルのプロパティファイルを提供します。サンプルのプロパティファイルをカスタマイズして、アップグレードのオプションを指定できます。

サンプルのプロパティファイルの名前は `SilentInput.properties` で、クライアントインストーラディレクトリのルートにあります。

1. クライアントのインストールファイルを含むディレクトリのルートに移動します。
2. `SilentInput.properties` という名前のファイルを探します。
そのファイルをバックアップしてから変更します。
3. テキストエディタを使用してファイルを開き、アップグレードパラメータの値を変更します。
以下の表に、変更可能なアップグレードパラメータを示します。

プロパティ名	説明
<code>INSTALL_TYPE</code>	Informatica クライアントツールをインストールするか、アップグレードするかを指定します。 以前のバージョンの Informatica からアップグレードするには、値を 1 に設定します。
<code>USER_INSTALL_DIR</code>	新しいバージョンの Informatica クライアントツールをインストールするディレクトリです。
<code>UPG_BACKUP_DIR</code>	アップグレードする Informatica ツールの以前のバージョンのディレクトリです。
<code>INSTALL_HADOOP_LIBRARIES</code>	インストーラを使用してディストリビューションパッケージをインストールするかどうかを決定します。インストーラを使用してディストリビューションパッケージをインストールする場合は、値を <code>true</code> に設定します。ディストリビューションパッケージが必要ない場合、または後でインストールする場合は、値を <code>false</code> に設定します。
<code>SELECTED_HADOOP_LIBRARIES</code>	サポートされているパッケージのリストから、インストールする統合パッケージを指定します。インストールするディストリビューションパッケージを入力します。複数の場合はカンマで区切ります。

4. プロパティファイルを保存します。

サイレントインストーラの実行

プロパティファイルを作成したら、コマンドプロンプトを開いてサイレントアップグレードを開始します。

1. コマンドプロンプトを開きます。
2. クライアントインストーラディレクトリのルートに移動します。
3. ディレクトリにアップグレードオプションを含む `SilentInput.properties` ファイルが保存されていることを確認します。

- サイレントアップグレードプロセスを開始するには、silentInstall.bat を実行します。

サイレントアップグレードがバックグラウンドで実行されます。プロセスにしばらく時間がかかる場合があります。Informatica_<Version>_Services_InstallLog.log がインストールディレクトリに作成されると、サイレントアップグレードプロセスは完了です。

サイレントアップグレードは、プロパティファイルが正しく設定されない場合、または、インストールディレクトリにアクセスできない場合に失敗します。アップグレードが失敗した場合は、インストールログファイルを表示して、エラーを修正します。次に、サイレントインストーラを再実行します。

- Informatica Developer のアップグレード完了後、Windows マシンをログオフしてからもう一度ログオンし、システム設定を完了します。

アップグレードした後に

アップグレード後、プロファイルにデータドメインをインポートします。

定義済みのデータドメイングループおよび関連するデータドメインをデータドメイングロッサリに追加するには、[ウィンドウ] > [設定] > [Informatica] > [データドメイングロッサリ] > [インポート] メニューオプションを使用して Informatica_IDE_DataDomain.xml ファイルを Developer tool にインポートします。

データドメインに関連付けられたルールの表示やルールの変更を行うには、Developer tool の [ファイル] > [インポート] メニューオプションを使用して Informatica_IDE_DataDomainRule.xml ファイルをインポートします。

付録 A

アップグレードチェックリスト

この付録では、以下の項目について説明します。

- [アップグレードチェックリストの概要, 54 ページ](#)
- [ドメインをアップグレードする前に, 54 ページ](#)
- [ドメインのアップグレード, 55 ページ](#)
- [アプリケーションサービスをアップグレードする前に, 56 ページ](#)
- [アプリケーションサービスのアップグレード, 56 ページ](#)
- [Informatica クライアントのアップグレード, 57 ページ](#)
- [アップグレードした後に, 57 ページ](#)

アップグレードチェックリストの概要

アップグレードのチェックリストでは、アップグレードを完了するために実行する必要があるタスクについて要約します。Informatica 製品を複数のマシンでアップグレードする場合は、このガイドの詳細な指示を使用して最初のアップグレードを完了してください。その後のアップグレードは、このチェックリストを利用して実行できます。

ドメインをアップグレードする前に

ドメインをアップグレードする前に、以下のアップグレード前のタスクを実行します。

- ❑ 『Informatica リリースノート』をお読みください。
- ❑ 次のタスクを実行して、オペレーティングシステムの要件を満たすようにマシンを設定します。
 - マシンに必要なオペレーティングシステムパッチおよびライブラリがインストールされていることを確認します。
 - マシンがドメインをアップグレードするための最小システム要件を満たしていることを確認します。
 - マシンがアプリケーションサービスをアップグレードするためのハードウェア要件を満たしていることを確認します。
 - 非ネイティブ環境のディストリビューションを確認します。
 - 環境変数を確認します。

- 最大ヒープサイズの設定を確認します。
- インストーラファイルを抽出します。
- Informatica Upgrade Advisor を実行します。
- 構成ファイルをバックアップします。
- ☐ Data Transformation ファイルをバックアップします。
- ☐ Administrator ツールまたは infacmd DisableService を使用して、アナリストサービスを無効にします。
- ☐ 次のタスクを実行して、モデルリポジトリを準備します。
 - モデルリポジトリをバックアップします。
 - モデルリポジトリデータベースのユーザーアカウント要件を確認します。
- ☐ 次のタスクを実行して、データ統合サービスを準備します。
 - データ統合サービスの各プロセスの実行オプションを記録します。
 - すべてのワークフローが完了したことを確認します。
- ☐ 次のタスクを実行して、参照データのディレクトリを準備します。
 - 参照データのディレクトリをバックアップします。
 - ディレクトリの場所を記録します。
- ☐ ネイティブデータベースバックアップオプションを使用して、プロファイリングウェアハウス、参照データウェアハウス、およびワークフローデータベースをバックアップします。
- ☐ 次のタスクを実行して、ドメインを準備してください。
 - データベースユーザーアカウントの要件を確認します。
 - ドメインをシャットダウンします。ドメインをシャットダウンするには、ドメイン内の各ノード上で Informatica サービスプロセスを停止します。
 - ドメインをバックアップします。
- ☐ ノード設定を変更するための準備をします。
ノード設定の変更を選択した場合は、追加のアップグレード前のタスクを実行します。

ドメインのアップグレード

サーバーインストーラを使用してドメインをアップグレードします。サーバーインストーラのドメインアップグレードウィザードを使用してアップグレードプロセスを実行できます。

アップグレードウィザードによって、指定したインストールディレクトリに Informatica ファイルがインストールされます。以前のバージョンのディレクトリにあるファイルは変更されません。

アップグレードウィザードを実行する際に、ドメインを別のマシンまたは別のドメイン環境設定リポジトリデータベースにアップグレードする場合には、ノード設定を変更するオプションを選択します。

アプリケーションサービスをアップグレードする前に

アプリケーションサービスをアップグレードする前に、以下のアップグレード前のタスクを実行します。

- ☐ ロケール環境変数を設定します。
ロケール設定にリポジトリのコードページとの互換性があることを確認します。
- ☐ ブラウザのキャッシュをクリアします。
- ☐ ノード設定を変更して Informatica のインストールを別のマシンに移行するオプションを選択する場合、以下のタスクを実行します。
 - 環境変数を設定します。
 - ライブラリパス環境変数を設定します。
 - ノードで実行されるアプリケーションサービスプロセスに動的に割り当てられるポート番号の範囲を確認します。
 - ノードのバックアップディレクトリがノードからアクセス可能であることを確認します。
 - PowerExchange アダプタを設定します。PowerExchange アダプタのインストーラがある場合は、PowerExchange アダプタを再インストールします。

アプリケーションサービスのアップグレード

各サービスバージョンではサービスのアップグレードが必要です。サービスアップグレードウィザードを使用して、サービスをアップグレードできます。

- ☐ 次のアプリケーションサービスのアップグレードに必要な特権を確認します。
 - モデルリポジトリサービス
 - データ統合サービス
 - コンテンツ管理サービス
 - スケジューラサービス
 - アナリストサービス
- ☐ 次のサービスおよび関連するデータベースをアップグレードします。
 - モデルリポジトリサービス
 - データ統合サービス
 - データ統合サービスのプロファイリングウェアハウス
 - スケジューラサービス
 - アナリストサービス
- ☐ サービスアップグレードウィザードを実行して、アプリケーションサービスとサービスに関連付けられたデータベースのデータベースコンテンツをアップグレードします。
- ☐ モデルリポジトリサービスのアップグレードを確認します。
 - オブジェクト依存関係のグラフ

- 最大ヒープサイズ

Informatica クライアントのアップグレード

クライアントインストーラを使用してクライアントツールをアップグレードします。クライアントツールは、指定したインストールディレクトリにインストールされます。クライアントインストーラは新しくインストールしたクライアントツールを、以前のバージョンと同じ設定で設定します。

アップグレードした後に

ドメイン、アプリケーションサービスおよびクライアントファイルをアップグレードした後に、以下のアップグレード後のタスクを実行します。

- ☐ プロファイルおよびスコアカードに次のタスクを実行します。
 - データドメイングループおよび関連するデータドメインをデータドメイングロッサリにインポートします。定義済みデータドメイングループおよび関連するデータドメインをデータドメイングロッサリに追加する場合は、Informatica_IDE_DataDomain.xml ファイルをインポートします。
 - infacmd ps restoreProfilesAndScorecards コマンドを実行して、以前のバージョンのプロファイルとスコアカードを現在のバージョンに復元します。
 - スコアカードを実行して、作成したスコアカードの[累積メトリック傾向]ペインの統計情報を表示します。
- ☐ ODBC プロバイダタイプを使用するようにすべての Microsoft SQL Server 接続をアップグレードします。
- ☐ SQL データサービス用の Informatica ドライバをアップグレードします。
- ☐ Data Transformation ファイルを以前のインストールディレクトリから新しいインストールディレクトリにコピーして、以前のバージョンと同じワークスペース、リポジトリ、およびカスタムグローバルコンポーネントを取得します。
- ☐ 実装が必要な新機能、または有効化が必要な新しいオプションのリストを確認するには、『*Informatica の新機能および変更点*』を参照してください。

付録 B

ディストリビューションパッケージの管理

この付録では、以下の項目について説明します。

- [ディストリビューションパッケージの管理の概要, 58 ページ](#)
- [作業を開始する前に, 59 ページ](#)
- [コンソールモードでのディストリビューションパッケージのインストールまたは削除, 59 ページ](#)
- [サイレントモードでのディストリビューションパッケージのインストールまたは削除, 60 ページ](#)
- [インストールした後に, 61 ページ](#)

ディストリビューションパッケージの管理の概要

Integration Package Manager（パッケージマネージャ）を使用して、Informatica サービスマシンおよびクライアントマシンからディストリビューションパッケージをインストールおよび削除できます。

ディストリビューションパッケージは、次の処理要件を満たすためにドメイン内にインストールする一連のディストリビューションバイナリです。

- Hadoop または Databricks 環境に処理をプッシュする場合。
- Informatica ドメイン内で複合ファイルを処理する場合。
- Informatica ドメイン内で処理する際に Hadoop または Databricks 環境に接続する場合。

アップグレードプロセスまたはインストールプロセス中にディストリビューションパッケージをインストールしなかった場合、またはディストリビューションパッケージを追加する場合は、ディストリビューションパッケージをインストールできます。別のパッケージを使用する場合、または使用しないパッケージをインストールした場合は、ディストリビューションパッケージを削除できます。

ディストリビューションパッケージをインストールまたは削除するときは、すべてのサービスマシンとクライアントマシンに対して操作を実行していることを確認してください。

作業を開始する前に

Integration Package Manager を実行する前に、環境変数の設定やファイルのダウンロードなどのタスクを実行します。

1. Informatica Services をシャットダウンします。
2. 次の環境変数のいずれかを設定します。

変数	説明
INFA_JDK_HOME	サポートされる Java Development Kit (JDK) が含まれるフォルダの場所。次の場合は、INFA_JDK_HOME 環境変数を設定します。 <ul style="list-style-type: none">- Informatica ドメインが Windows または Linux プラットフォーム上にある- Informatica クライアントである
INFA_JRE_HOME	サポートされている Java Runtime Environment (JRE) が含まれているフォルダの場所。Informatica ドメインが AIX プラットフォーム上にある場合は、INFA_JRE_HOME 環境変数を設定します。

3. パッケージマネージャを実行するユーザーに、Informatica インストールディレクトリの読み取り/書き込み権限、および実行可能ファイルの実行権限があることを確認してください。
4. Informatica 電子ソフトウェアダウンロードサイトから次のファイルをダウンロードします。
 - [Integration Package Manager](#)
 - [Distribution packages](#)
5. Integration Package Manager の ZIP ファイルをローカルドライブに抽出します。
6. 必要なディストリビューションパッケージの ZIP ファイルを次の場所にコピーします: <Integration Package Manager ディレクトリ>/source
注: ディストリビューションパッケージの ZIP ファイルがソースディレクトリで利用できない場合、パッケージマネージャは失敗します。

コンソールモードでのディストリビューションパッケージのインストールまたは削除

Integration Package Manager をコンソールモードで実行して、ディストリビューションパッケージをインストールまたは削除できます。

1. 統合パッケージマネージャディレクトリから、次のいずれかのコマンドを実行します。
 - ./Server.sh console (Linux または UNIX の場合)
 - Server.bat console (Windows の場合)
 - Client.bat console (クライアントの場合)

注: Windows でコマンドを実行するには、管理者のコマンドプロンプトを使用します。

2. サービスまたはクライアントのインストールディレクトリを入力し、**Enter** キーを押します。

3. 操作タイプを選択し、**Enter** キーを押します。
 - 既存のディストリビューションパッケージを削除するには、1 を選択します。
 - 1 つ以上のディストリビューションパッケージをインストールするには、2 を選択します。
 インストールまたは削除できるディストリビューションパッケージがコンソールに表示されます。
4. インストールまたは削除するディストリビューションパッケージを、複数の場合はカンマで区切って入力します。**Enter** キーを押します。
5. Integration Package Manager のログファイルで、インストールまたは削除のステータスを確認します。
 ログファイルは次の場所にあります: <Integration Package Manager ディレクトリ>/IntegrationPackageManager_<日付とタイムスタンプ>.log

サイレントモードでのディストリビューションパッケージのインストールまたは削除

Integration Package Manager をサイレントモードで実行して、ディストリビューションパッケージをインストールまたは削除できます。サイレント入力プロパティファイルには、パッケージマネージャをサービスおよびクライアントのサイレントモードで実行するためのプロパティが含まれています。ファイル内の各プロパティに適切な値を設定します。

1. 次の場所で IntegrationPackageManager.properties ファイルを見つけます: <Integration Package Manager ディレクトリ>/
2. テキストエディタでプロパティファイルを編集します。
 以下の表に、変更可能なプロパティを示します。

プロパティ名	説明
USER_INSTALL_DIR	サービスまたはクライアントのインストールディレクトリ。
OPERATION_TYPE	実行する操作: <ul style="list-style-type: none"> - 既存のディストリビューションパッケージを削除するには、DELETE に設定します。 - 1 つ以上のディストリビューションパッケージをインストールするには、EXTRACT に設定します。
SELECTED_HADOOP_LIBRARIES	ディストリビューションパッケージとバージョンを表示します。 インストールまたは削除するディストリビューションパッケージを入力します。複数のパッケージがある場合はカンマで区切ります。

3. プロパティファイルを保存します。
4. 統合パッケージマネージャディレクトリから、次のいずれかのコマンドを実行します。
 - ./Server.sh silent (Linux または UNIX の場合)
 - Server.bat silent (Windows の場合)
 - Client.bat silent (クライアントの場合)

注: Windows でコマンドを実行するには、管理者のコマンドプロンプトを使用します。

5. Integration Package Manager のログファイルで、インストールまたは削除のステータスを確認します。
ログファイルは次の場所にあります。<Integration Package Manager ディレクトリ>/
IntegrationPackageManager_<日付とタイムスタンプ>.log

インストールした後に

パッケージマネージャを使用してインストールしたディストリビューションパッケージを使用するには、サービスマシンおよびクライアントマシンでプロパティまたは環境変数を設定します。

Developer tool の設定

Developer tool にディストリビューションパッケージをインストールした後、developerCore.ini ファイルを、インストールしたディストリビューションパッケージで更新します。

1. 次の場所で developerCore.ini ファイルを見つけます: <Informatica インストールディレクトリ>\clients\DeveloperClient
2. ファイルを編集して、次のプロパティを更新します。
-DINFA_HADOOP_DIST_DIR=hadoop\<Hadoop distribution name>_<version>
例:
-DINFA_HADOOP_DIST_DIR=hadoop\CDH_7.1
3. Developer tool を再起動します。

環境変数の設定

一部のアダプタでは、データ統合サービスおよびメタデータアクセスサービスがディストリビューションパッケージにアクセスするには環境変数が必要です。詳細については、

[Configure environment variables to process complex files](#) を参照してください。

索引

D

dbs2 接続

データベース接続のテスト [34](#)

I

IATEMPDIR

環境変数 [15](#)

Informatica services

サイレントモードでのアップグレード [25](#)

Informatica サービス

コンソールモードでのアップグレード [23](#)

コンソールモードでのアップグレード（ノードへの変更あり） [35](#)

Informatica プロセス

ユーザーアカウント [33](#)

isql

データベース接続のテスト [34](#)

J

JRE_HOME

環境変数 [15](#)

L

LANG

ロケール環境変数 [15](#)

LC_ALL

ロケール環境変数 [15](#)

Linux

データベースクライアント環境変数 [34](#)

P

PATH

環境変数 [15](#)

S

sqlplus

データベース接続のテスト [34](#)

U

UNIX

コンソールモードでの Informatica サービスのアップグレード [23](#)

コンソールモードでのアップグレード（ノードへの変更あり） [35](#)

データベースクライアント環境変数 [34](#)

データベースクライアント変数 [34](#)

UNIX (続く)

ライブラリパス [43](#)

あ

アップグレード

ファイルの事前バックアップ [19](#)

アップグレードエラー

モデルリポジトリサービス [47](#)

アプリケーションサービス

ポート [32](#)

アプリケーションサービスのアップグレード

特権 [45](#)

い

インストール

ファイルの事前バックアップ [19](#)

インストールの要件

ポートの要件 [32](#)

環境変数 [15](#)

最小システム要件 [12](#)

お

オブジェクト依存関係のグラフ

再構築 [47](#)

オペレーティング システム

サポートの終了 [31](#)

こ

コンソールモード

Informatica サービスのアップグレード [23, 35](#)

さ

サイレントモード

Informatica サービスのアップグレード [25](#)

し

システム要件

最小 [11](#)

最小インストール要件 [12](#)

て

データベース

接続のテスト [34](#)

データベースクライアント

IBM DB2 クライアントアプリケーションイネーブラ [34](#)

Microsoft SQL Server ネイティブクライアント [34](#)

Oracle クライアント [34](#)

Sybase オープンクライアント [34](#)

環境変数 [34](#)

構成 [34](#)

と

ドメイン

ポート [32](#)

の

ノード

アップグレード時の移行 [42](#)

ノード設定

変更プロセスの完了 [42](#)

は

パッチの要件

インストール [13](#)

ふ

ファイルのバックアップ

アップグレード前 [19](#)

ファイルのバックアップ (続く)

インストール前 [19](#)

ほ

ポート

アプリケーションサービス [32](#)

ドメイン [32](#)

要件 [32](#)

ポートの要件

インストールの要件 [32](#)

も

モデルリポジトリサービス

アップグレードエラー [47](#)

ゆ

ユーザーアカウント

Informatica プロセス [33](#)

ら

ライブラリパス

環境変数 [15](#)

り

リポジトリ

データベースクライアントのインストール [34](#)